

帯広・広尾自動車道(大樹～広尾)

第1回 計画段階評価資料

平成26年7月30日

国土交通省 北海道開発局

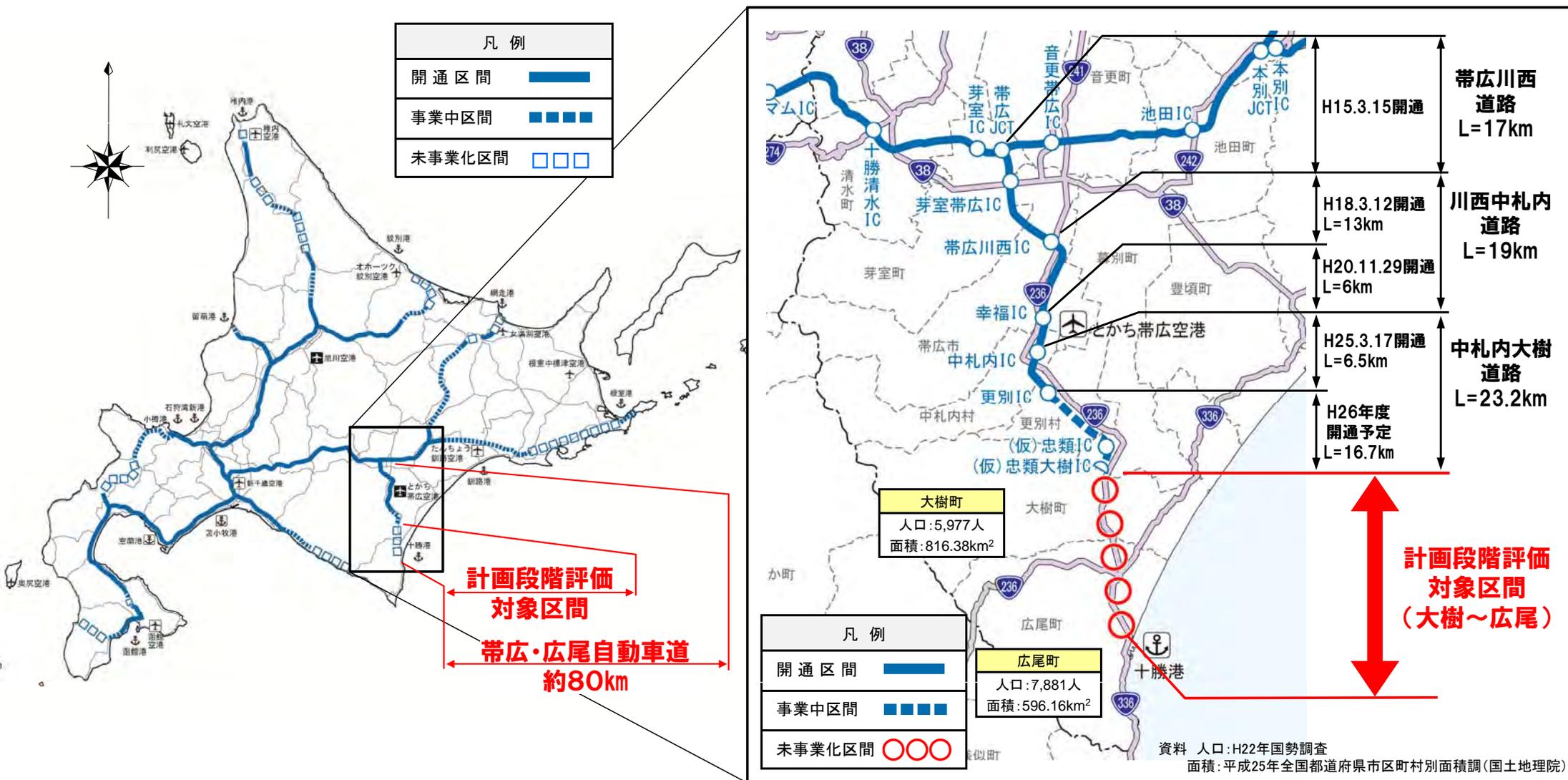
目 次

1. 計画段階評価着手箇所
2. 計画段階評価手続きの進め方
3. 地域の概況と課題
4. 道路交通上の課題と原因分析
5. 政策目標の案
6. 地域意見聴取方法

1. 計画段階評価着手箇所

1-1) 計画段階評価着手箇所

- 帯広・広尾自動車道は、北海道横断自動車道から分岐し、重要港湾十勝港に至る延長約80kmの高規格幹線道路。
- これまで帯広JCT～更別ICまでが開通し、更別IC～(仮称)忠類大樹IC間はH26年度内に開通予定。
- 計画段階評価対象区間である大樹～広尾間は唯一の事業未着手区間。

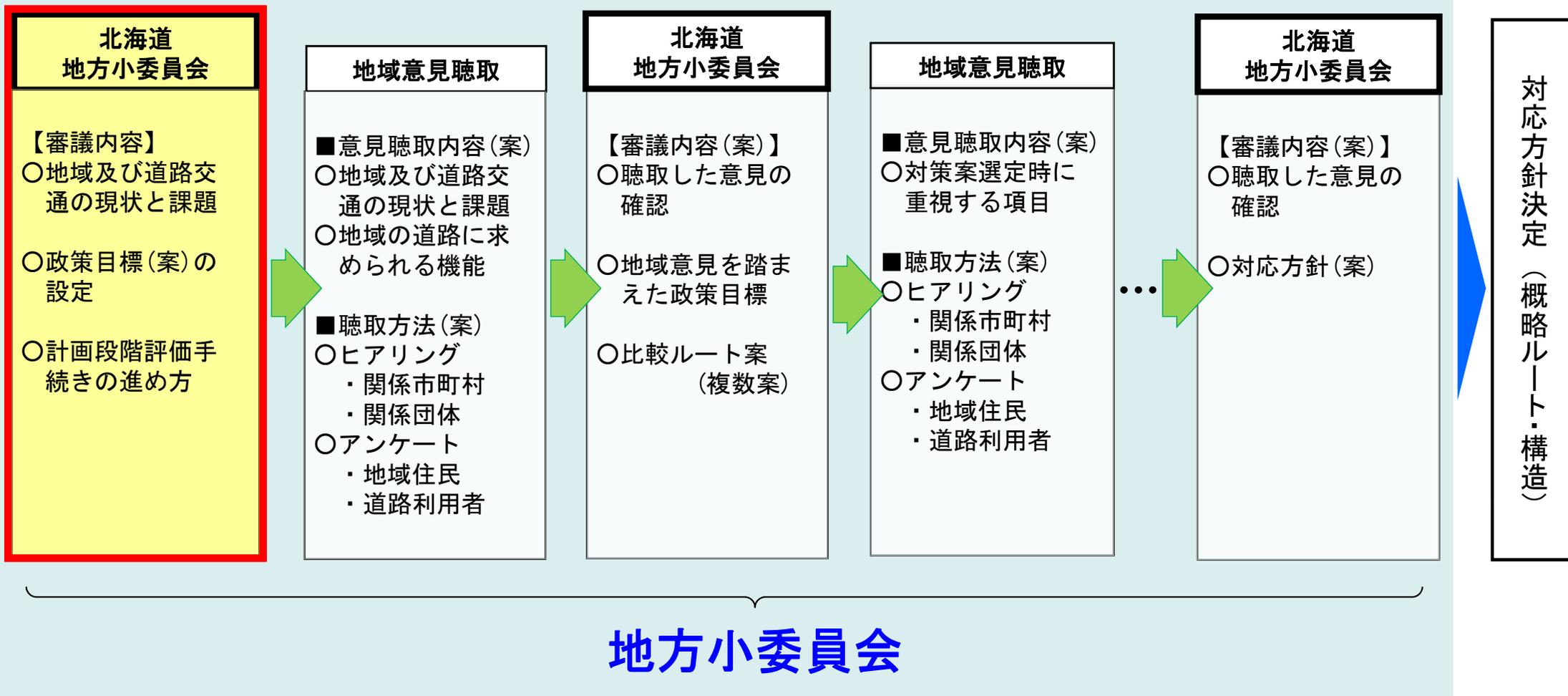


2. 計画段階評価手続きの進め方

2-1) 計画段階評価の手続きの進め方(案)

- 地域の現状と交通課題、道路整備の必要性等を把握するため地域意見聴取を実施予定
- 地域の意見を伺いながら委員会での審議を経て、対応方針(案)を決定

今回



本日、ご議論いただきたい内容

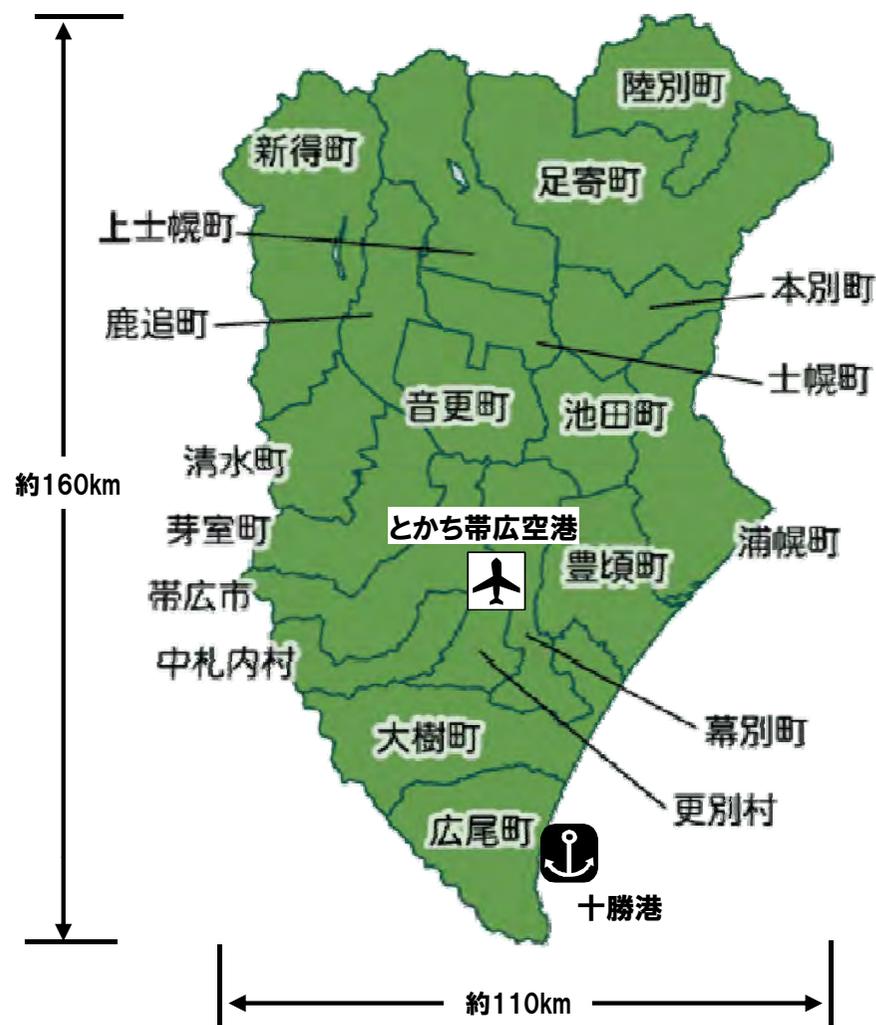
- 地域の概況と課題
- 道路交通上の課題と原因分析
- 政策目標の案
- 地域意見聴取方法

3. 地域の概況と課題

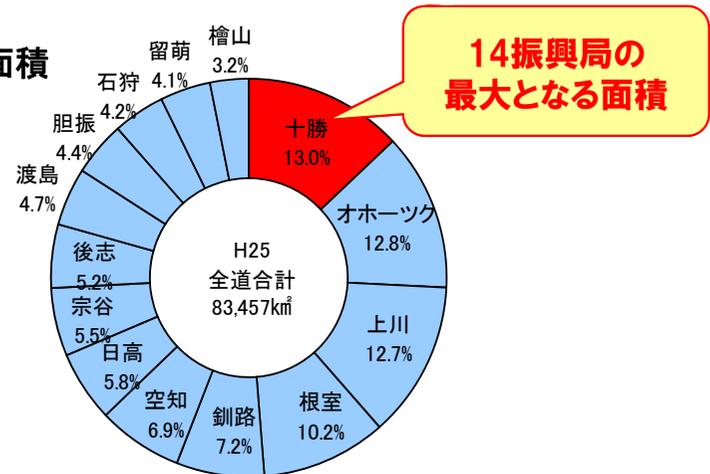
3-1) 地域の地勢

- 十勝は北海道の南東部に位置し1市16町2村で構成。
- 拠点空港である「とにかち帯広空港」と重要港湾「十勝港」を擁している。
- 総面積は10,831km²と北海道の約13%の面積を占め、14振興局のなかでも最大の面積を有している。
- また全国都府県平均面積の約1.7倍となり、上位県と比較しても全国5位の大きさ。

▼十勝の市町村

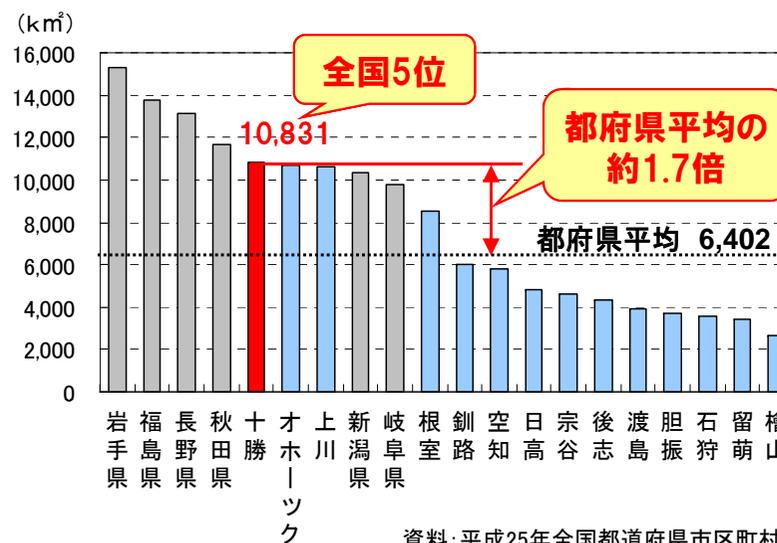


▼総合振興局別総面積



資料:平成25年全国都道府県市区町村別面積調/国土地理院

▼面積上位県および道内総合振興局別面積との比較

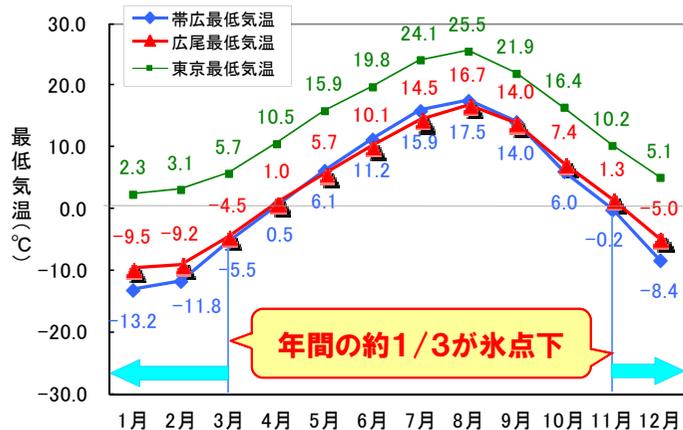


資料:平成25年全国都道府県市区町村別面積調/国土地理院

3-2) 気象

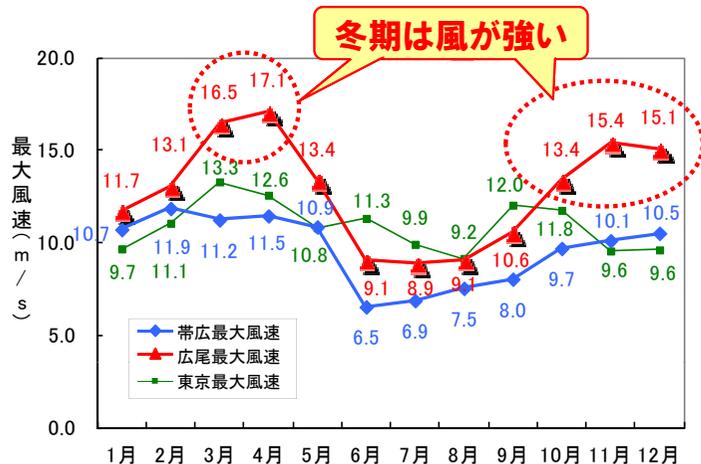
○十勝は年間の約3分の1の期間が氷点下となる寒さの厳しい地域。
 ○その中でも対象区間は10年間確率3日間降雪深が97cmと全道他地域と比べても雪が多く、冬期は風が強い。

▼帯広、広尾における最低気温



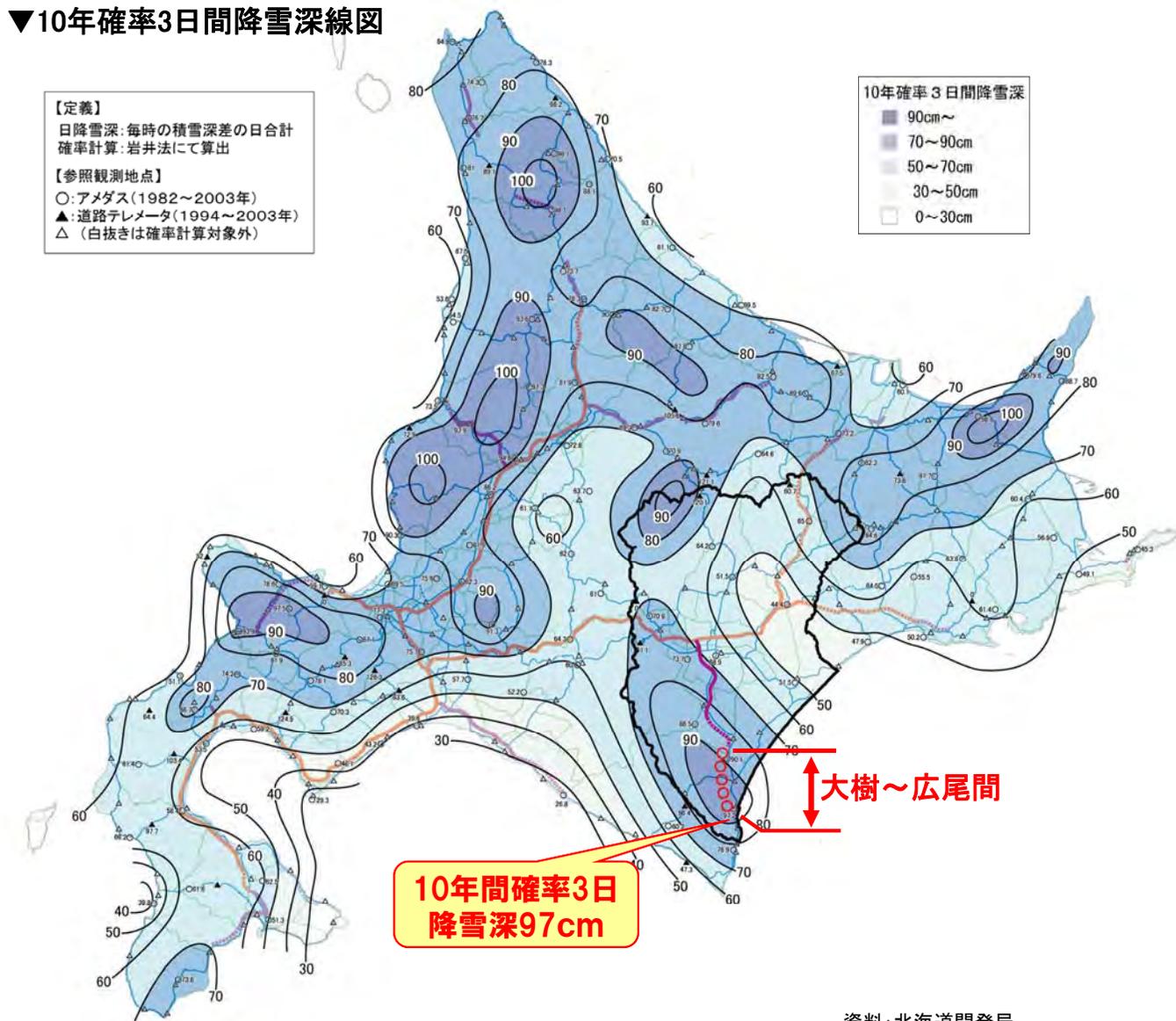
資料: 気象庁気象台・測候所データ(H21.1~H25.12)

▼広尾町付近の最大風速



資料: 気象庁気象台・測候所データ(H21.1~H25.12)

▼10年確率3日間降雪深線図

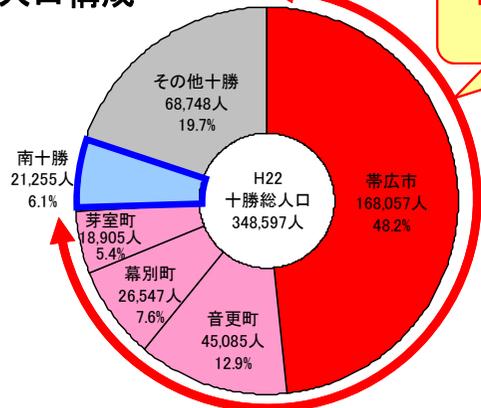


資料: 北海道開発局

3-3) 人口

○十勝の人口は帯広圏(1市3町)に全体の約7割が集中。
 ○南十勝は人口減少傾向にあるなか、高齢者の人口は増加傾向。

▼十勝人口構成

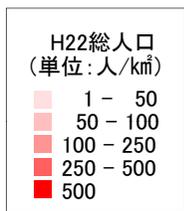
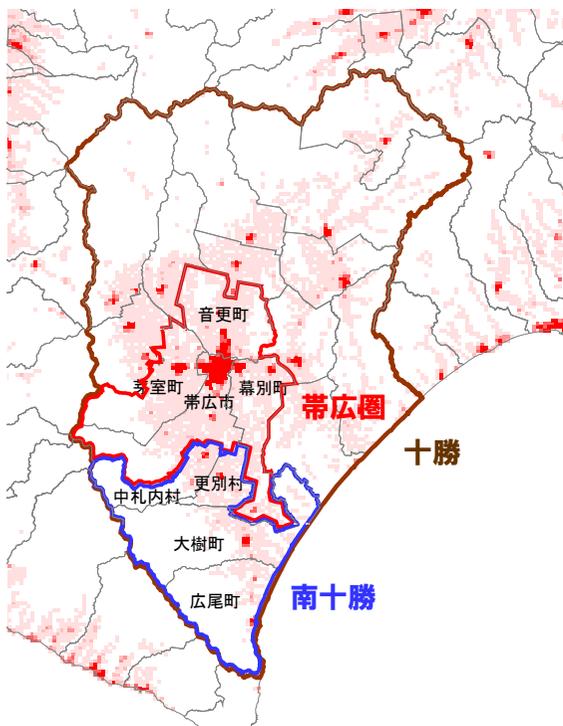


帯広圏で十勝の約7割を占める

帯広圏
258,594人
74.2%

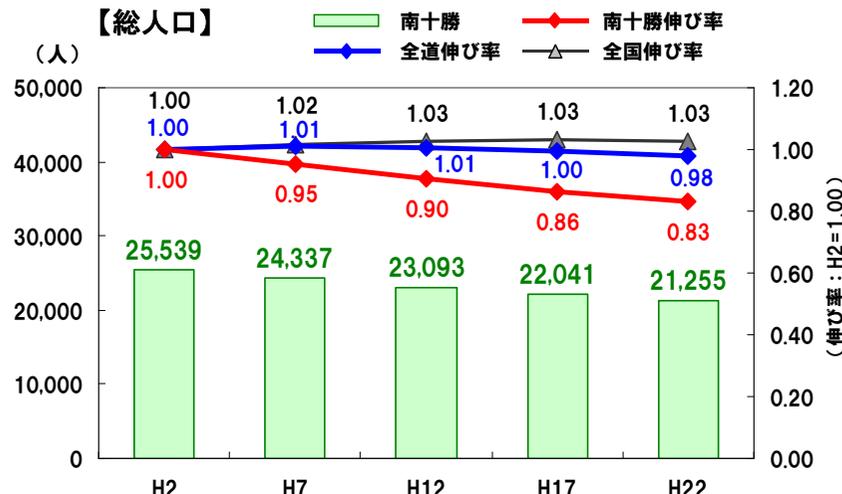
資料: H22年国勢調査

▼十勝圏の人口分布



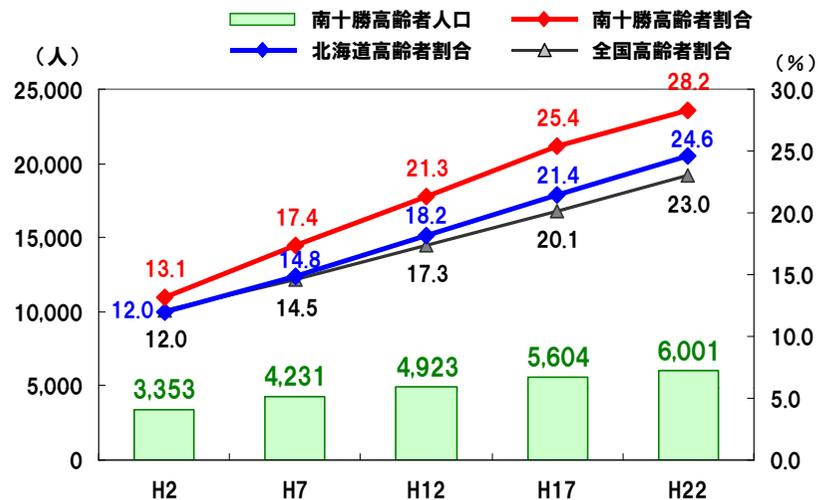
資料: H22年国勢調査

▼全道、全国と南十勝の経年比較



南十勝: 中札内村、更別村、大樹町、広尾町
資料: 国勢調査

【高齢者人口と割合】

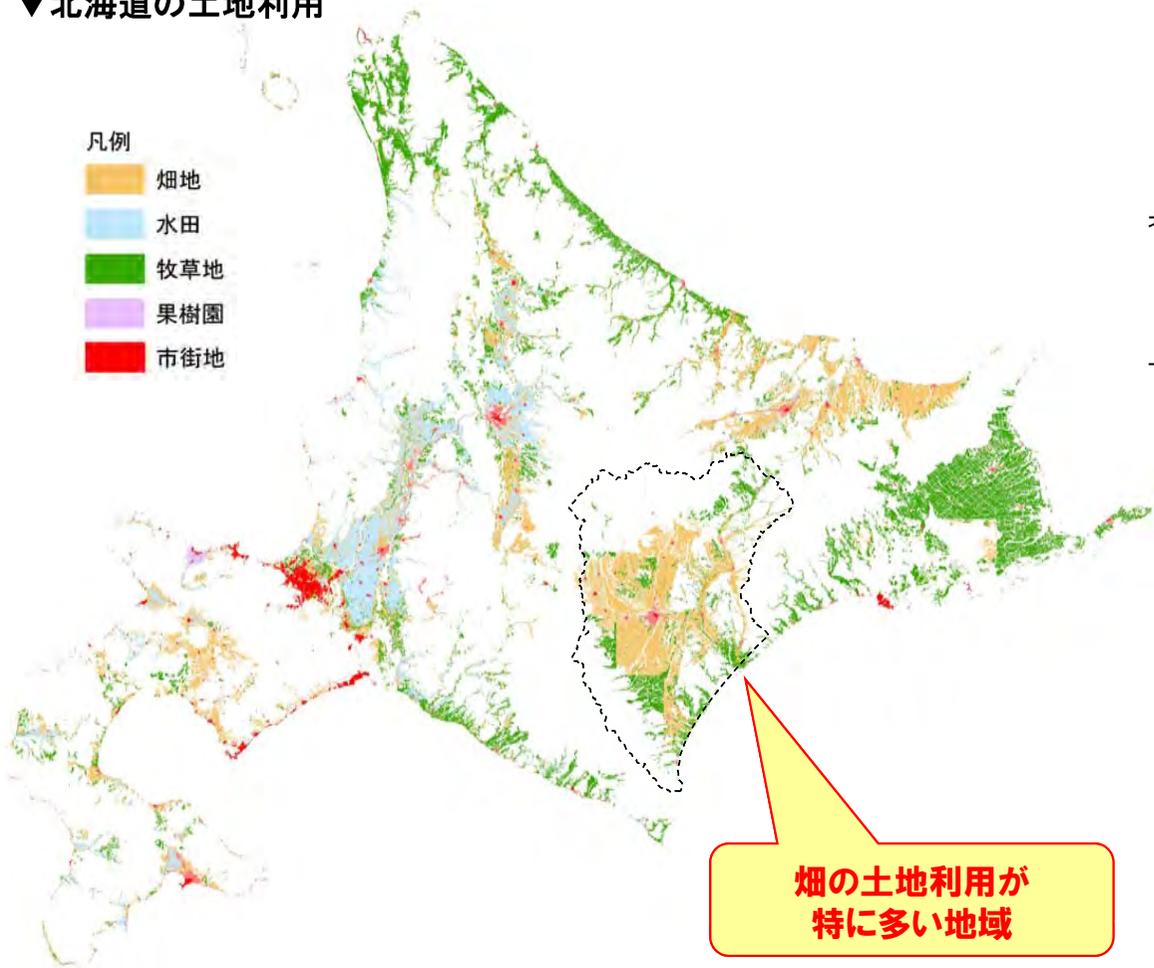


南十勝: 中札内村、更別村、大樹町、広尾町
資料: 国勢調査

3-4) 産業構造

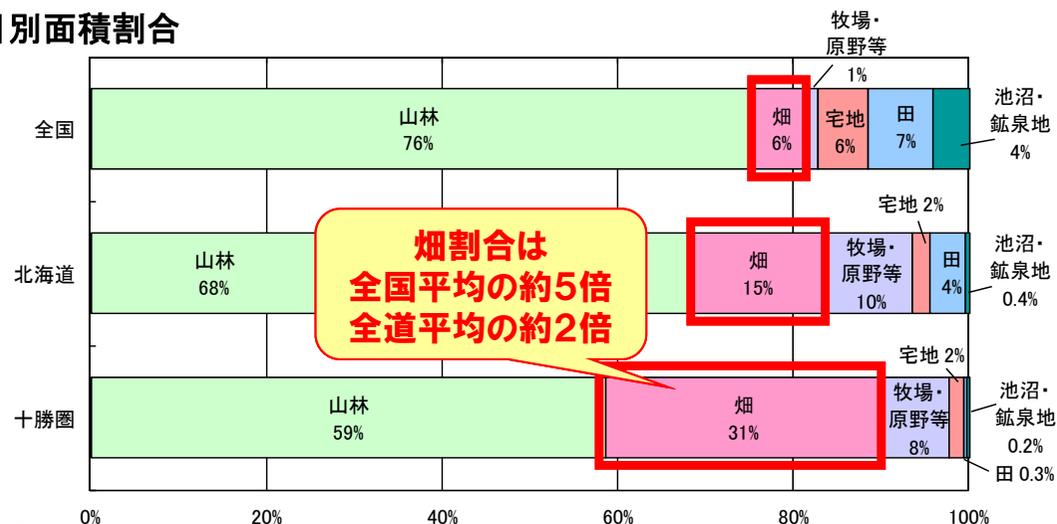
- 北海道の中でも十勝圏はオホーツク圏と並び、特出して畑としての土地利用が多い地域。
- 十勝圏は、畑の面積割合が約31%で全国の約5倍、全道の約2倍の耕地面積を持つ地域。
- 南十勝では、第1次産業に従事する人口の割合が全国・北海道の平均より高い。

▼北海道の土地利用



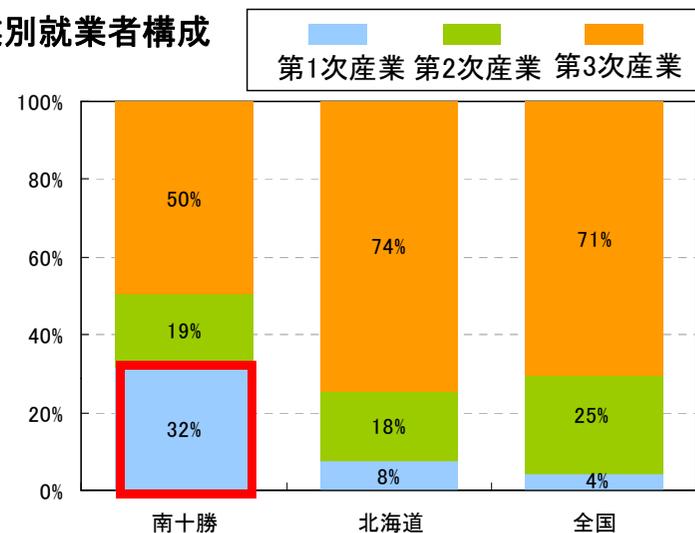
資料：H24年植生調査

▼地目別面積割合



資料：H24年度データ（雑種地・その他を除く）、
（全国）土地白書、（北海道・十勝）北海道統計書

▼産業別就業者構成

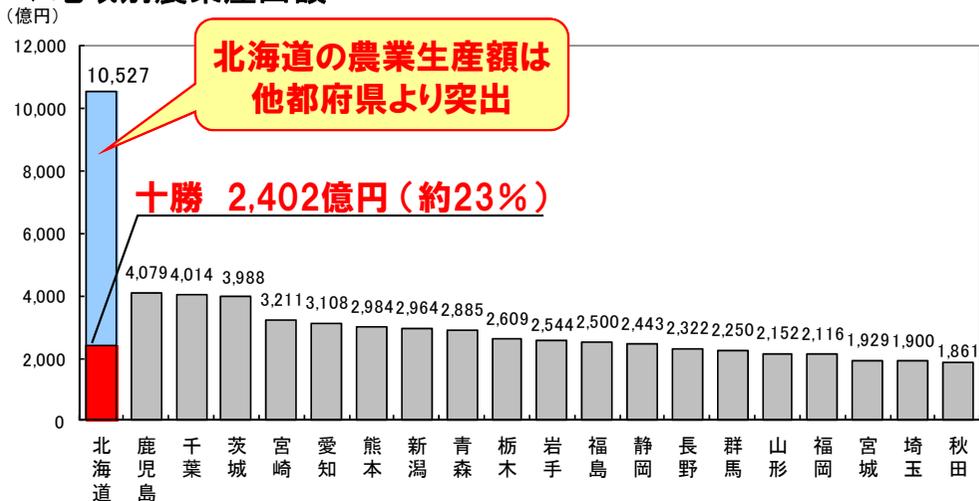


資料：H22年国勢調査

3-5) 十勝の農業

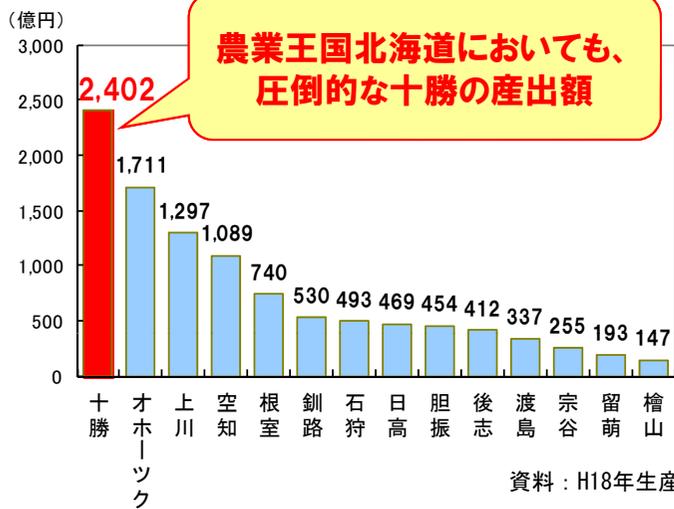
○北海道の農業産出額は他都府県より突出しているが、十勝は農業王国北海道においても第1位の農業産出額を誇り、国内における食糧基地として重要な地域。

▼地域別農業産出額



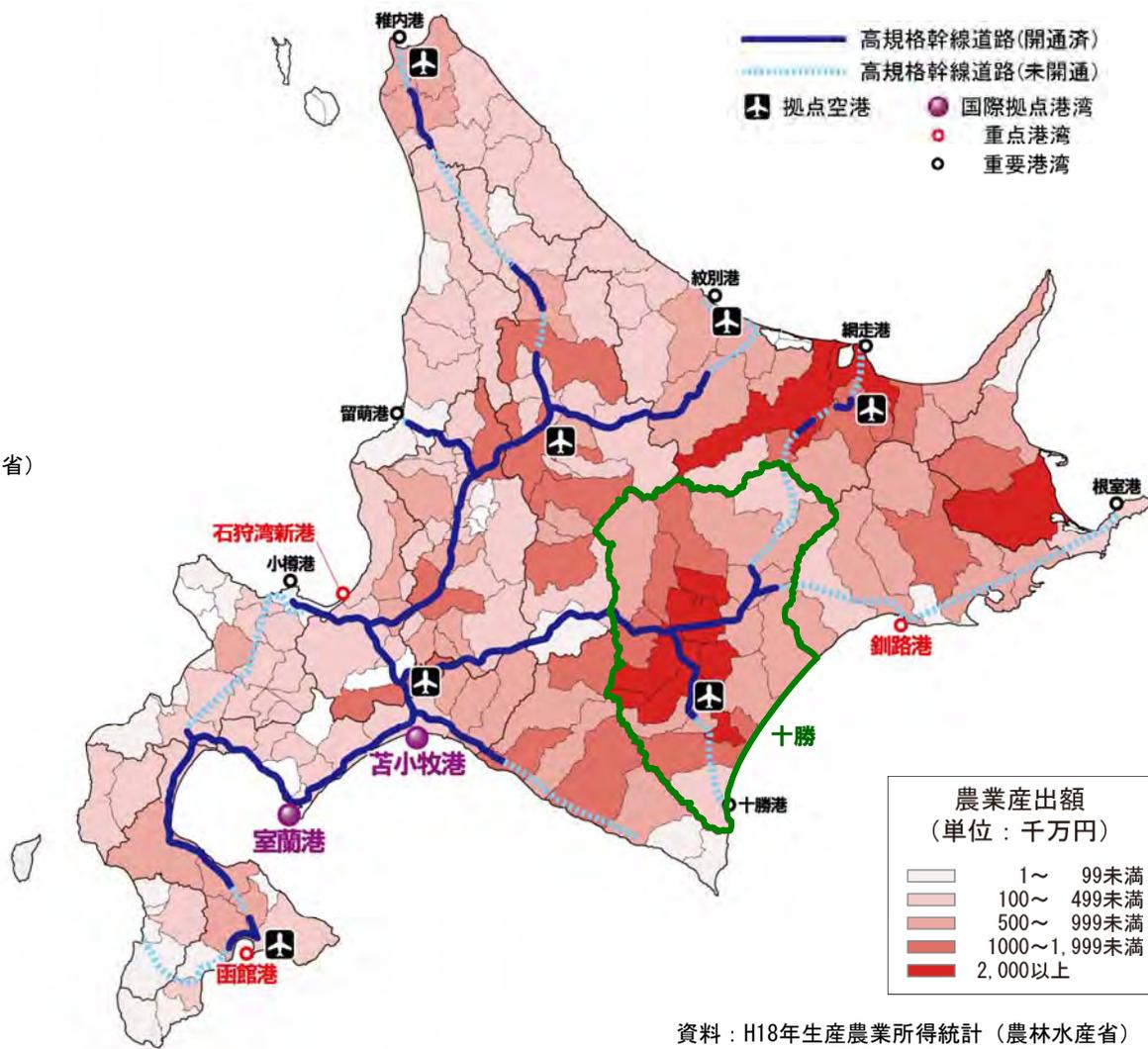
資料：H18年生産農業所得統計（農林水産省）

▼北海道振興局別農業産出額



資料：H18年生産農業所得統計（農林水産省）

▼市町村別農業産出額



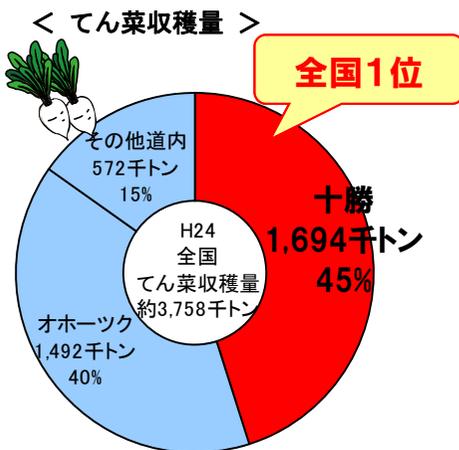
資料：H18年生産農業所得統計（農林水産省）

3-6) 十勝の農業

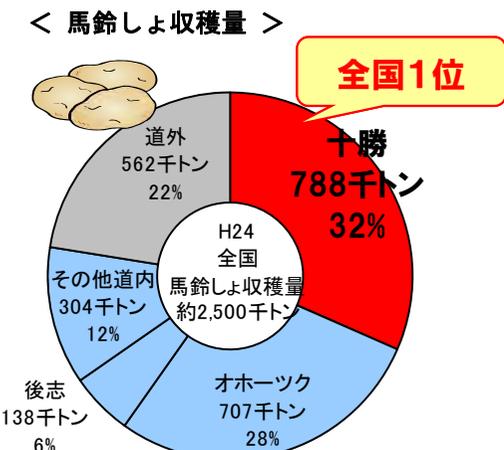
○十勝地域の主要産品であるてん菜、馬鈴しょ、生乳、小麦など生活に欠かせない作物の生産量、および乳用牛・肉用牛の飼育頭数において全国有数のシェアを誇っており、安全安心で安定した食糧供給に寄与。

▼十勝の主な農産品収穫量・生産量及びシェア

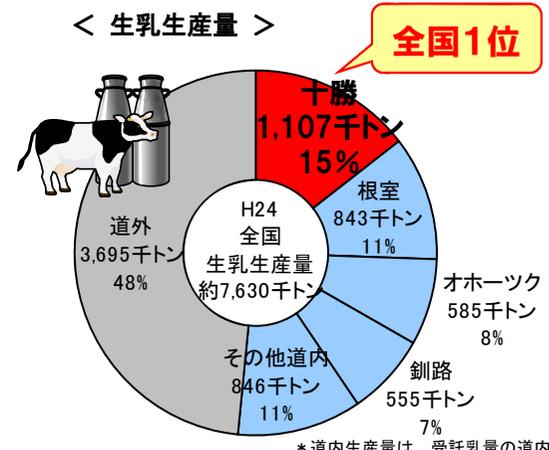
▼生体牛の飼育頭数



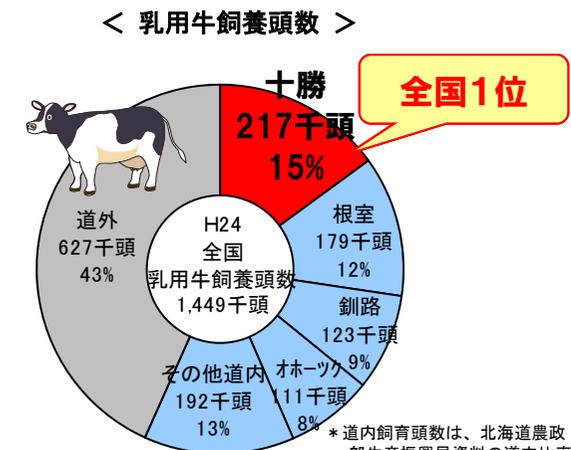
資料：H24年作物統計



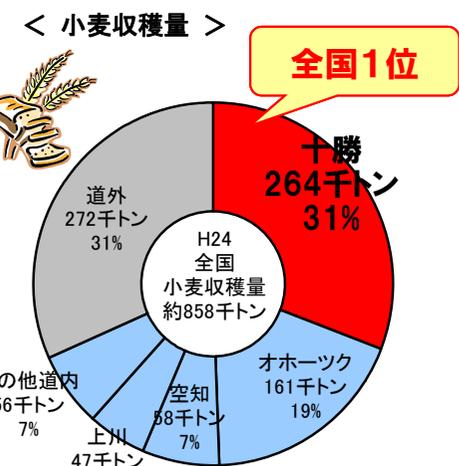
資料：H24年作物統計



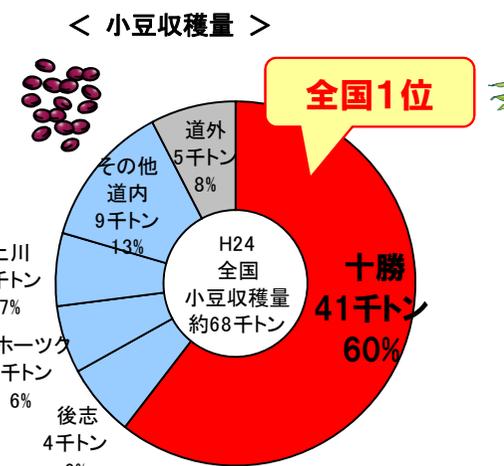
資料：H24年牛乳乳製品統計（農林水産省）
振興局値は、2013十勝の農業（十勝総合振興局）



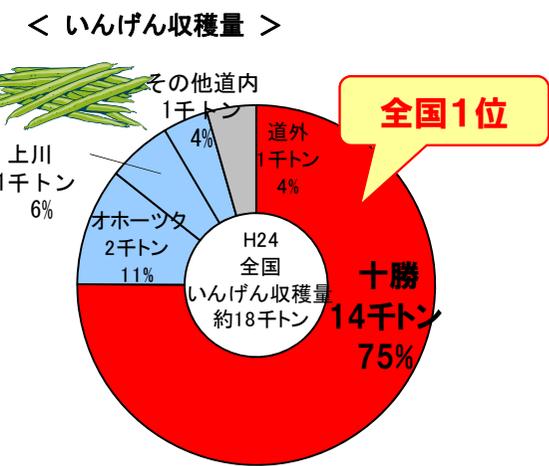
資料：H24年畜産統計（農林水産省）
振興局値は、北海道農政部生産振興局資料



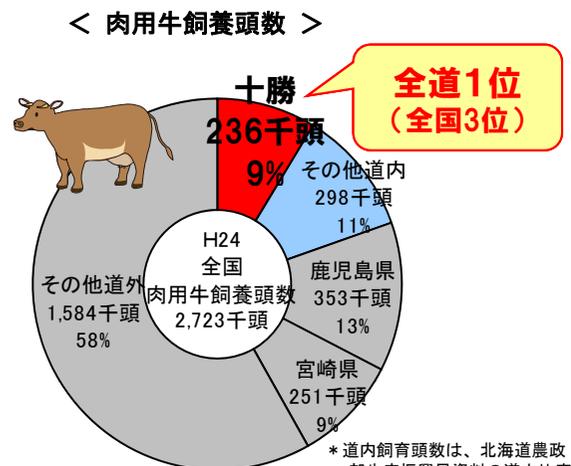
資料：H24年作物統計



資料：全国値、道外値はH24年作物統計（農林水産省）
振興局値は、H25年麦類・豆類・雑穀便覧（北海道農政部農産振興課）



資料：全国値、道外値はH24年作物統計（農林水産省）
振興局値は、H25年麦類・豆類・雑穀便覧（北海道農政部農産振興課）

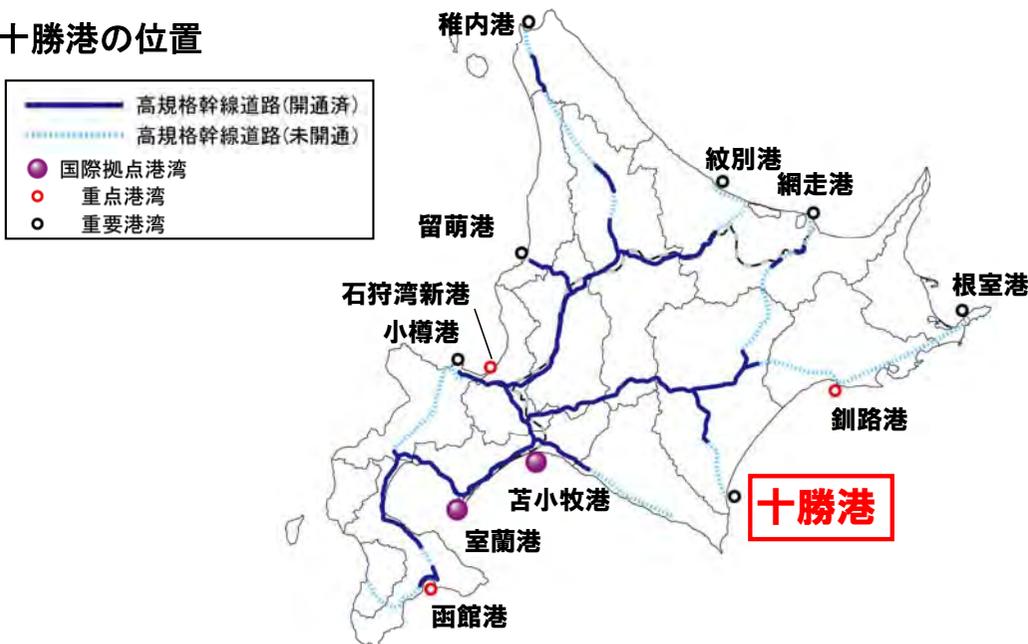


資料：H24年畜産統計（農林水産省）
振興局値は、北海道農政部生産振興局資料

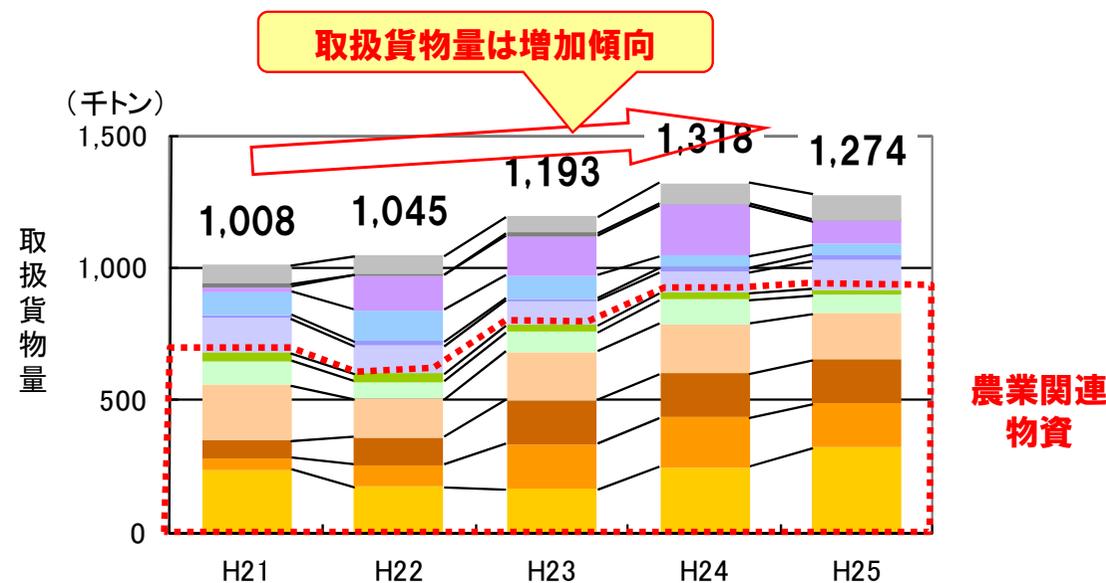
3-7) 十勝港

- 十勝港は十勝における唯一の港であり、小麦や馬鈴しょなど農業関連物資の本州方面への移出、飼料の原料となるとうもろこしや製糖工場の燃料となる石炭などの移輸入において、道内拠点となる港湾。
- 十勝港取扱量の半数を占める農業関連物資の取扱貨物量は増加傾向。

▼十勝港の位置

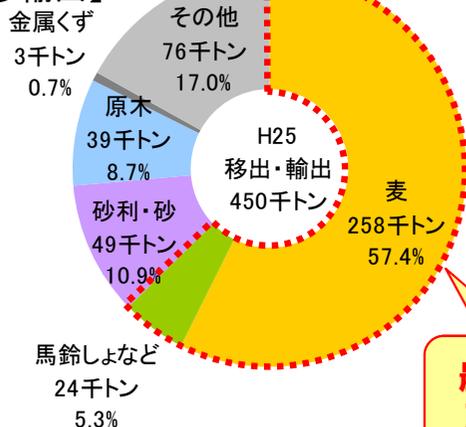


▼十勝港取扱貨物量の推移(輸移出・輸移入計)

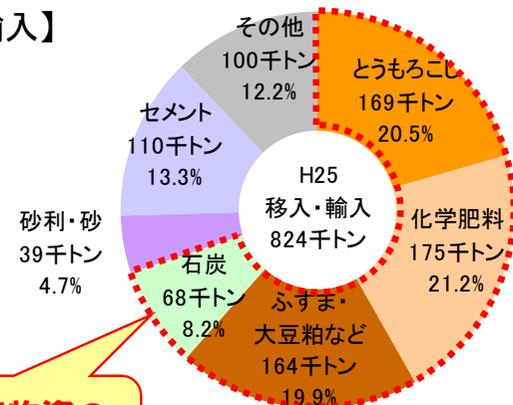


▼十勝港取扱貨物量の内訳

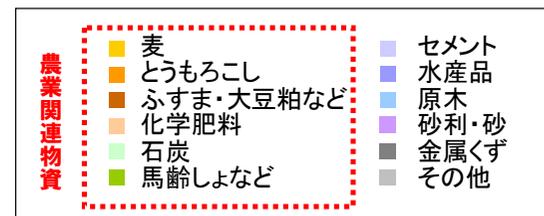
【移輸出】



【移輸入】



農業関連物資の取り扱いが多い



資料: 広尾町HP

資料: 広尾町HP

3-8) 十勝港

- 十勝港は、平成23年までに小麦サイロの増設、また平成23年4月には道内最大級の飼料コンビナートが完成・稼働するなど、地域の産業を支援。
- 平成16年に完成した13m岸壁を有し、北海道で唯一飼料原料のとうもろこしを輸送するパナマックス船が北米から直接入港可能な港であり、十勝港で生産される飼料の安定供給が可能となっている。

▼十勝港港湾整備計画図

平成16年13m岸壁の完成により大型貨物船が入港可能となり、海上輸送コストが削減

平成23年4月本格操業を開始した飼料コンビナート。
(貯蔵量4万t、年間約40万t 生産＝道内最大※事業者聞き取り)

《写真：穀物サイロ(左)配合飼料工場(右)》

耐震強化岸壁

石炭ヤード 農協サイロ(小麦) セメントサイロ 肥料センター

製糖工場の燃料となる石炭が海外から十勝港へ輸入。
《写真：石炭ヤード(上) 炭輸送船(下)》

十勝の農業を支える化学肥料
《写真：ホクレン肥料センター》

平成23年までに増設が行われた、小麦サイロ。
(H23:9万t→ H24:11.7万t)
《写真：広域小麦流通センター》

資料：広尾町HP

▼パナマックス船によるとうもろこしの輸入

十勝港は道内唯一パナマックス船が直接入港可能

北米より

喫水調整が必要な港は輸送コストが高騰

第2港へ

1mの深さの差は飼料の場合、約7千トンの輸送量差にもなる

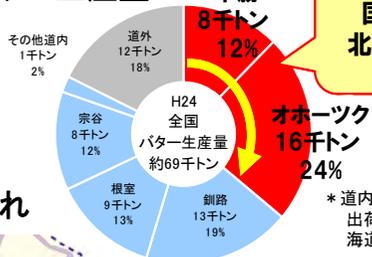
主なばら積み貨物船の大きさ分類	
名前	載貨重量トン範囲
ハンディサイズ	10,000 - 35,000
ハンディマックス	35,000 - 55,000
パナマックス	60,000 - 80,000
ケーブサイズ	80,000 以上

13m岸壁の整備により、より大きな国際飼料搬送船(パナマックス船)の着岸が可能

3-9) 十勝港と十勝・オホーツク地域の農業

- 低価格な飼料は、十勝・オホーツク地域など道内各地へ出荷され、全国2割の生乳生産および全国約8割のバター生産等に貢献している。
- 十勝港から輸入された化学肥料は、帯広市近郊の肥料工場で配合された後、十勝・オホーツク地域の各農家へ供給され、農地の土壌改善に寄与している。豊かな土壌で生産されたたまねぎは、十勝・オホーツク地域で全国の約4割を占め、トラックや鉄道により全国各地へ出荷されている。
- 十勝港等から輸入された石炭は十勝・オホーツク地域のてんさい糖を製造するのに燃料として使用され、国内生産量の約7割の生産に寄与している。

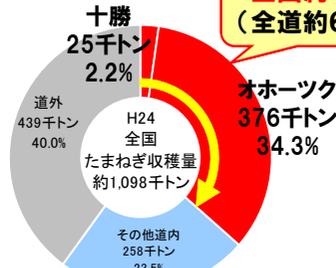
▼国産バター生産量



生乳から生産される国産バターは北海道で約8割を占める

*道内生産量は、バター出荷量の道内比率と北海道生産量にて按分
資料：H24年牛乳乳製品統計 H24年農畜産物及び加工食品移出実態調査

▼たまねぎ収穫量シェア

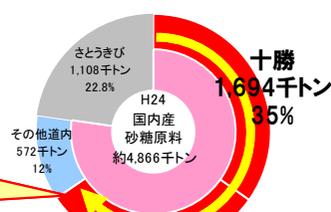


全国約4割 (全道約6割)

▼たまねぎ生産のための化学肥料の流れ



▼国内産砂糖原料



砂糖原料のてんさいは十勝・オホーツク地域で約7割を生産

▼製糖工場への石炭の流れ



砂糖生産の燃料は価格が安定してる石炭を十勝港から輸入

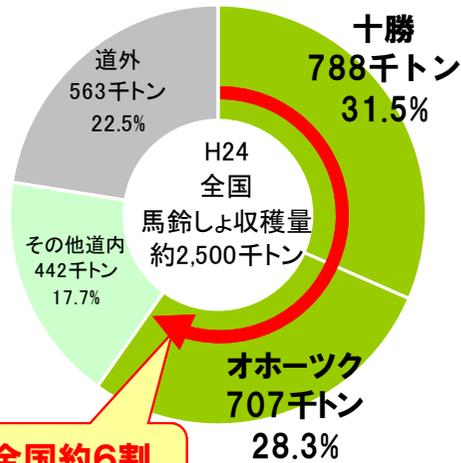
▼飼料の流れ



3-10) 十勝港と十勝・オホーツク地域の農業

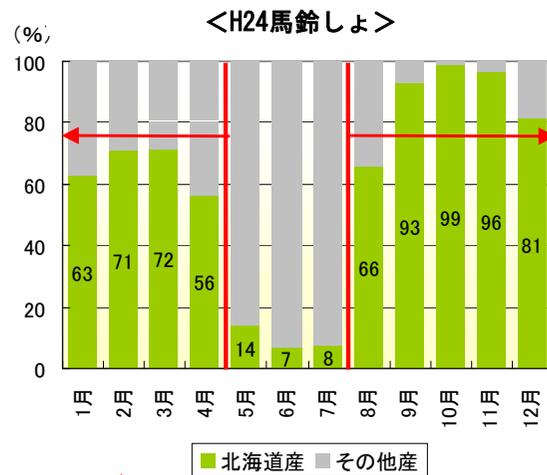
- 十勝・オホーツクで収穫される馬鈴しょの全国シェアは約6割であり、大手菓子製造会社へのスナック菓子等加工用や食用として全国各地へ出荷。
- また食用馬鈴しょは、東京都卸売市場において北海道産が年間2/3以上の期間、約6割のシェアを誇っている。
- 十勝・オホーツク地域で収穫される小麦の全国シェアは約5割であり、H23年に十勝港に増設された小麦サイロを經由して、全国各地の大手製粉工場に出荷され、パンなどの食料品に加工されている。

▼馬鈴しょ収穫量シェア



資料：H24年作物統計

▼東京都中央卸売市場での取扱比率

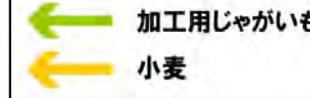


資料：東京都中央卸売市場HP

年間の2/3以上の期間が北海道産

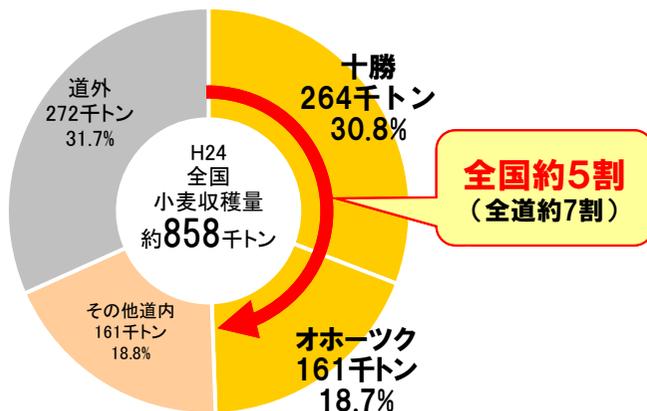
▼加工用じゃがいも・小麦の十勝港からの移出状況

【H23に増設された小麦サイロ】



資料：ヒアリング調査

▼小麦収穫量シェア

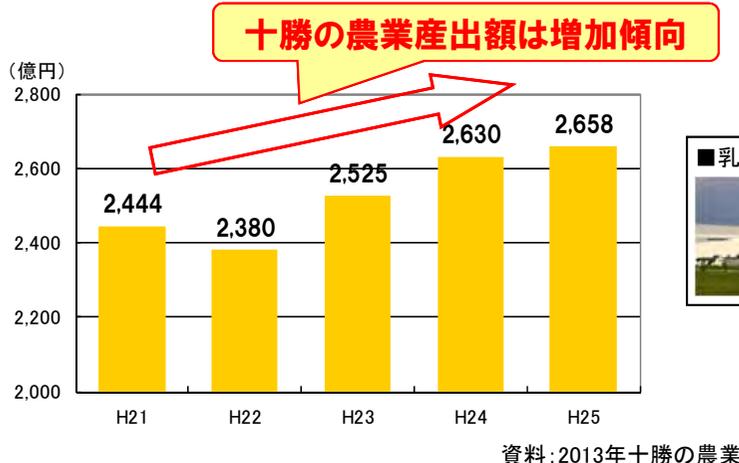


資料：H24年作物統計

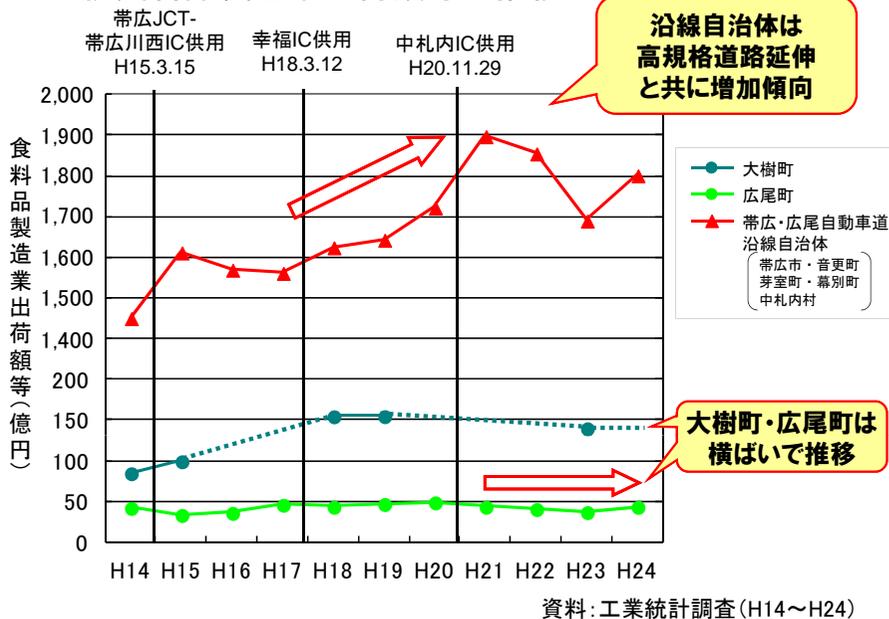
3-11) 農産品の高付加価値化

- 十勝全体の農業産出額は増加傾向。
- 帯広広尾道沿線には食料品製造関連工場が立地し食料品製造業出荷額も増加傾向にあり、第一次産業の高付加価値化に貢献。
- 大樹町、広尾町では出荷額が横ばいで推移。

▼十勝の農業産出額 (JA取扱高)の推移



▼十勝食料品製造業出荷額等の推移



▼帯広圏および南十勝における食料品製造業の立地

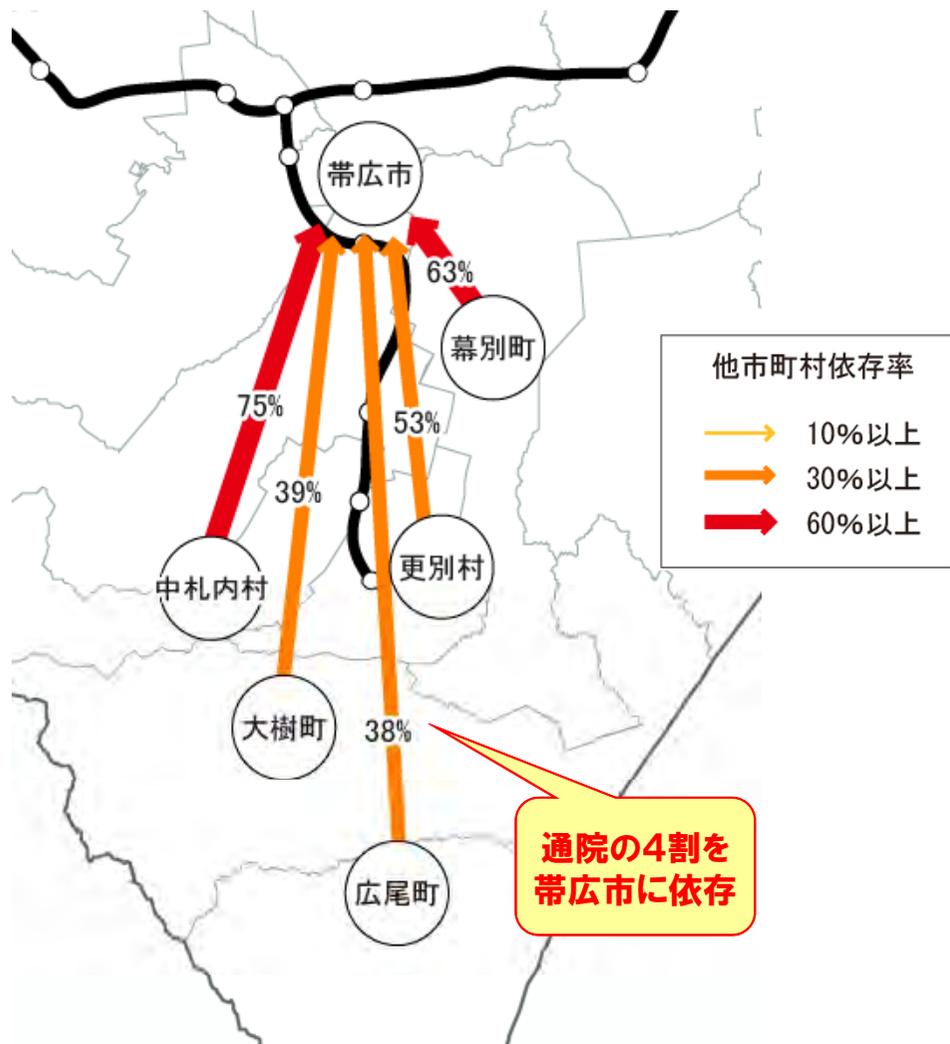


3-12) 生活

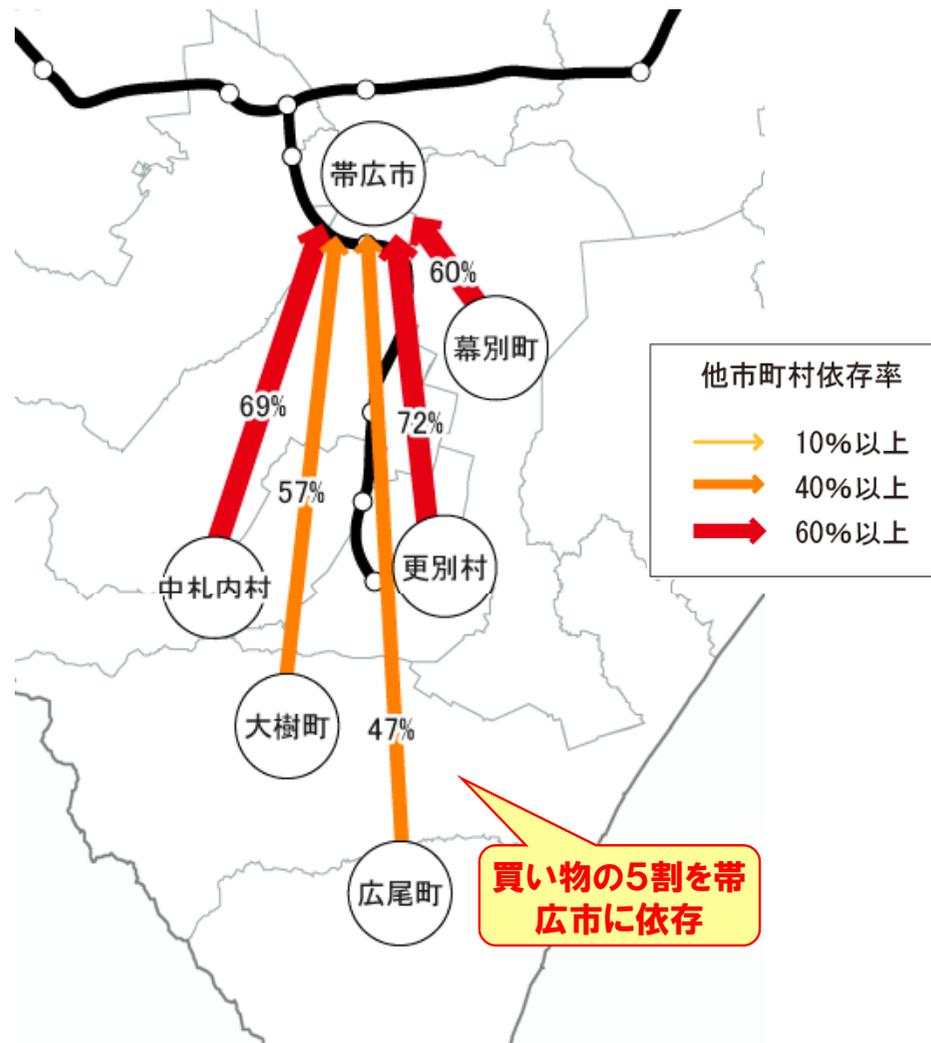
○帯広広尾道沿線の市町村は、日常医療における通院を帯広市に依存しており、南十勝地域の大樹町・広尾町では約4割を依存。

○また、買い物等も同様に帯広市に依存しており、大樹町では約6割、広尾町では約5割以上を依存。

▼通院流動



▼商圈流動



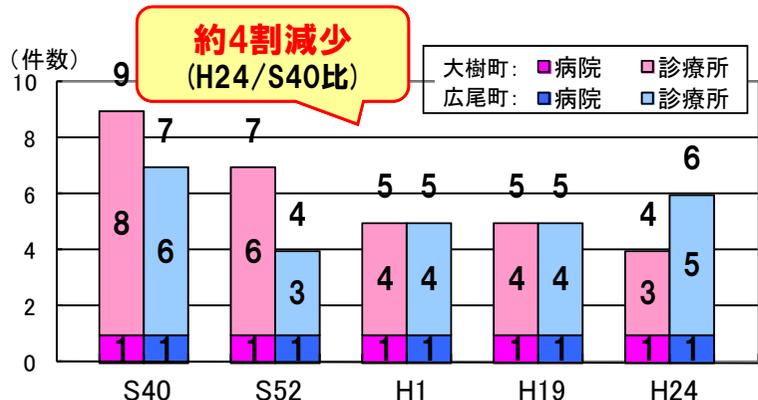
資料：平成18年6月診療分国民健康保険受療動向調査結果

資料：平成21年度北海道広域商圈動向調査報告書

3-13) 医療

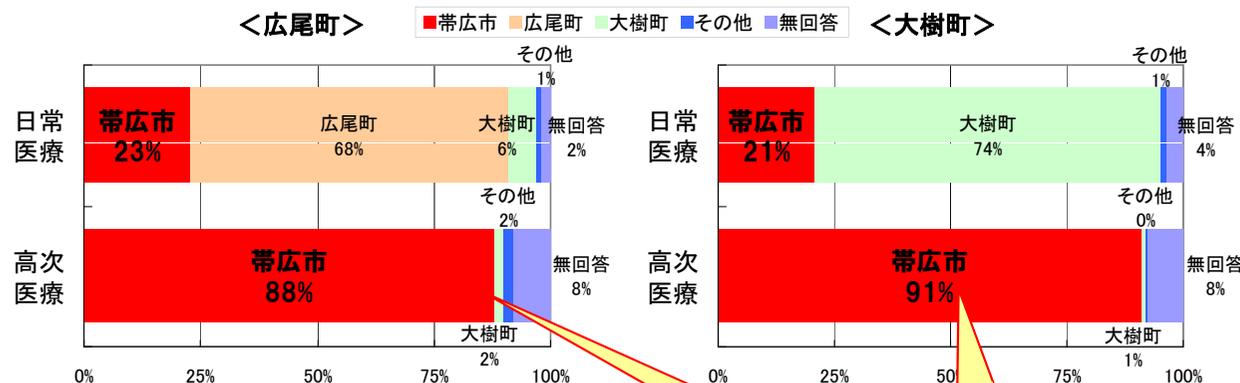
○大樹町・広尾町の医療施設は年々減少傾向であり、高次医療や産婦人科などの診療科目が大きく不足。
 ○救急搬送で対応可能な診療科目は少なく、帯広市等の救急医療施設に依存せざるを得ない状況。
 ○高次医療については9割、日常医療においても2割程度を帯広市に依存。

▼大樹町・広尾町における医療施設の推移



資料:S40~H19 北海道市町村勢要覧
H24年 医療施設調査(厚生労働省)

▼通院市町村(アンケート結果)



日常医療: 風邪、頭痛、腹痛などの診察等の手術や入院を伴わない医療
 高次医療: 手術や入院を伴うような高度な医療

高次医療は、約9割が帯広市の病院に依存

資料:H19アンケート結果(大樹町、広尾町)

▼各市町において対応可能な診療科一覧

	内科	呼吸器科	消化器科	胃腸科	循環器科	神経内科	小児科	小児外科	外科	整形外科	形成外科	脳神経外科	呼吸器外科	心臓血管外科	肛門科	眼科	耳鼻咽喉科
帯広市	●	●	●	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
大樹町	●		○	○	○		○	○	●	○					○	△	
広尾町	●		○	●					○	△					○		

	皮膚科	泌尿器科	産婦人科	産科	婦人科	歯科	矯正歯科	小児歯科	歯科口腔外科	心療内科	精神科	神経科	アレルギー科	リウマチ科	リハビリテーション科	放射線科	麻酔科	診療可能科目数	
																		通院	救急搬送
帯広市	●	●	●	○	○	●	●	○	●	●	●	●	○	●	●	●	●	34	29
大樹町		△				○	○	○					○					16	2
広尾町	△					○					△				●			11	3

● 日常医療・救急医療で対応可能な診療科目
 ○ 日常医療で対応可能な診療科目
 △ 日常医療で対応可能だが常勤医師がいない診療科目

・大樹町の整形外科は週1回、泌尿器科は週2回に1回帯広市内の病院より医師が出張診療
 ・広尾町の整形外科は週2回帯広市内の病院より医師が出張診療、
 脳神経外科・皮膚科は週2回に1回帯広市内の病院より医師が出張診療、
 精神科は週1回帯広市・音更町の病院より医師が出張診療、
 循環器科は週1回帯広市内・札幌市内の病院より医師が出張診療

大樹町・広尾町住民アンケート調査において不足を感じるとされた上位5つの診療科目

通院: 診療所等を含む
 救急搬送: 救急医療施設のみ、常勤医師がいない診療科目を除く

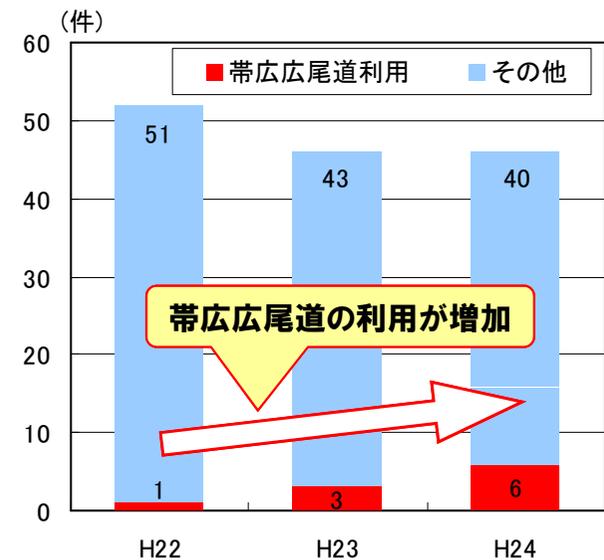
3-14) 医療

○大樹町・広尾町から帯広市への救急搬送は年間約210件あり、帯広市の救急医療施設に大きく依存。
 ○日高東部地域(浦河町・様似町・えりも町)からも、帯広市には年間約50件の救急搬送実績があり、搬送ルートとしての帯広広尾道の利用も増加。

▼救急搬送の状況



▼日高東部から帯広への救急搬送件数



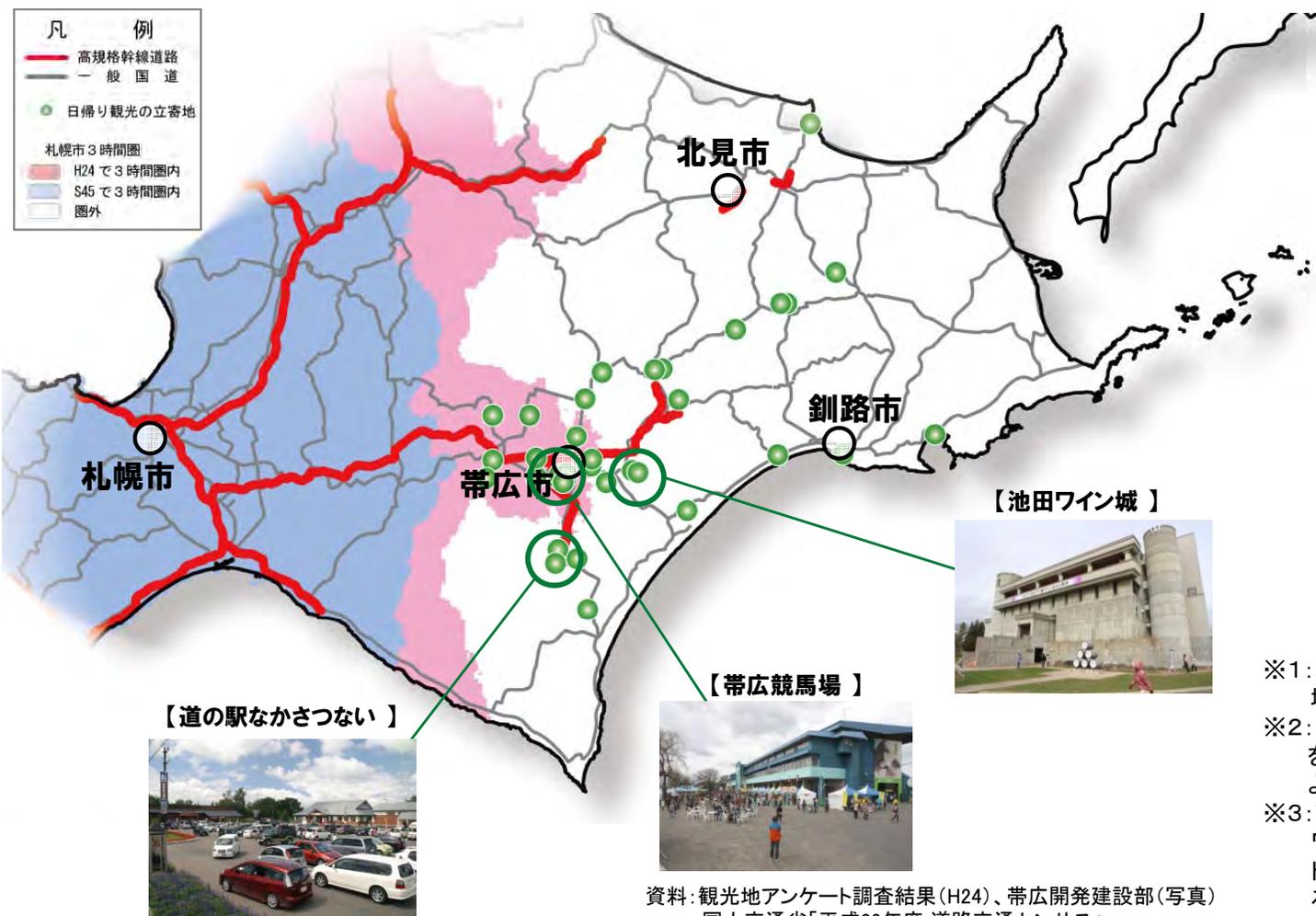
資料: 日高東部消防組合えりも支署ヒアリング

資料: 帯広開発建設部
 ・室蘭開発建設部調べ

3-15) 観光

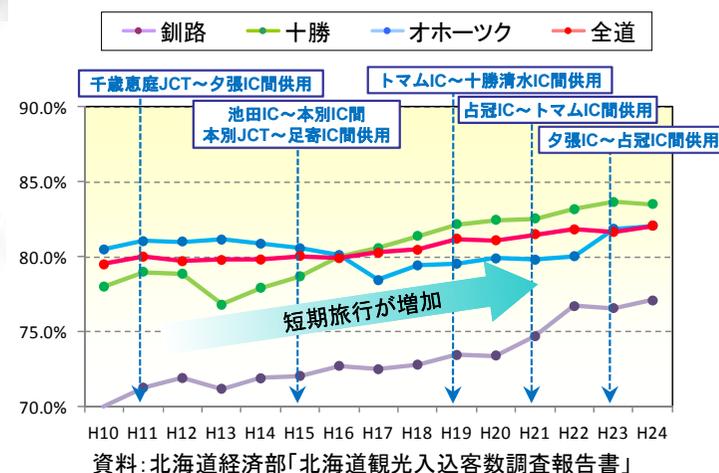
- 平成23年10月に道東道が帯広まで全線開通。
- 帯広市は札幌市からの移動時間が3時間圏※1になり、日帰り観光が活性化。
- 道央方面からの日帰り観光では3時間圏よりも遠方への立寄りも確認され、地域における観光ポテンシャルの向上に大きく貢献。

▼札幌圏から3時間圏と日帰り観光の立寄り地



資料：観光地アンケート調査結果（H24）、帯広開発建設部（写真）
国土交通省「平成22年度 道路交通センサス」

▼観光入込みに占める日帰り客の割合（振興局別）



- ※1：札幌市3時間圏は、北海道内を1km格子状の地域にて区分した地域区分（3次メッシュ）毎に算出した所要時間を用いて作成した。
- ※2：日帰り観光の立寄り地は、道東地域におけるアンケート調査結果※3を基に作成した道央地域に居住する日帰り観光客の周遊市町村および箇所。
- ※3：アンケート調査箇所：十勝川温泉、柳月スイートピアガーデン、池田ワイン城、十勝エコロジーパーク、帯広競馬場、帯広動物園、オンネット、美幌峠、道の駅なかさつない、道の駅うらほろ、道の駅あしよる銀河ホール21、道の駅しらぬか恋問、十勝平原SA、占冠PA

3-16) 観光

- 道東道の開通、帯広広尾道の延伸、とちかち帯広空港の便数増加、北海道ガーデン街道の盛り上がり等により十勝圏全体の観光入込客数は増加傾向。
- 十勝管内でも観光入込客数が減少傾向にある広尾町等では、高規格道路延伸による広域観光ルートの形成を目指し、日高東部・十勝南部広域連携推進協議会が発足。

▼広域観光ルートの形成



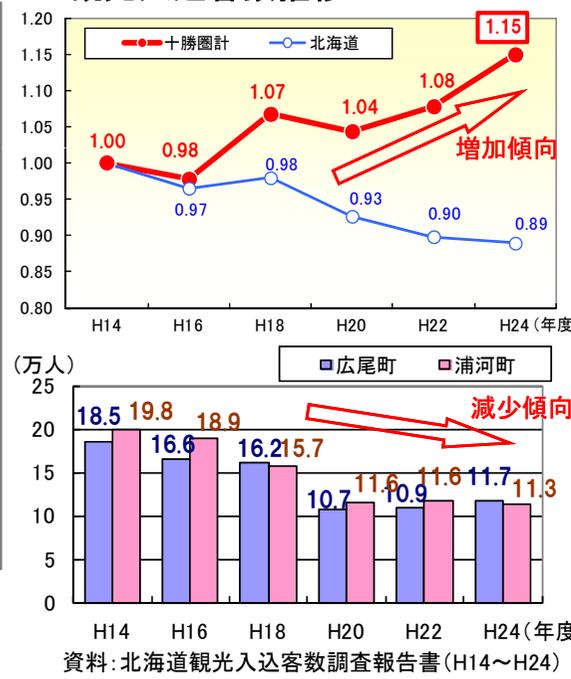
～北海道ガーデン街道～

北海道の代表的な美しい8つのガーデンが集中している、旭川～富良野～十勝を結ぶ全長約250kmの街道

真鍋庭園 十勝ヒルズ 紫竹ガーデン 六花の森

北海道ガーデン街道

▼観光入込客数推移



日高東部・十勝南部広域連携推進協議会が発足

発足 平成25年2月18日
 構成 帯広商工会議所、浦河商工会議所、十勝南部5町村(中札内、更別、幕別、大樹、広尾)と日高2町(様似、えりも)の商工会

十勝と日高東部を結ぶ 広域周遊観光を推進

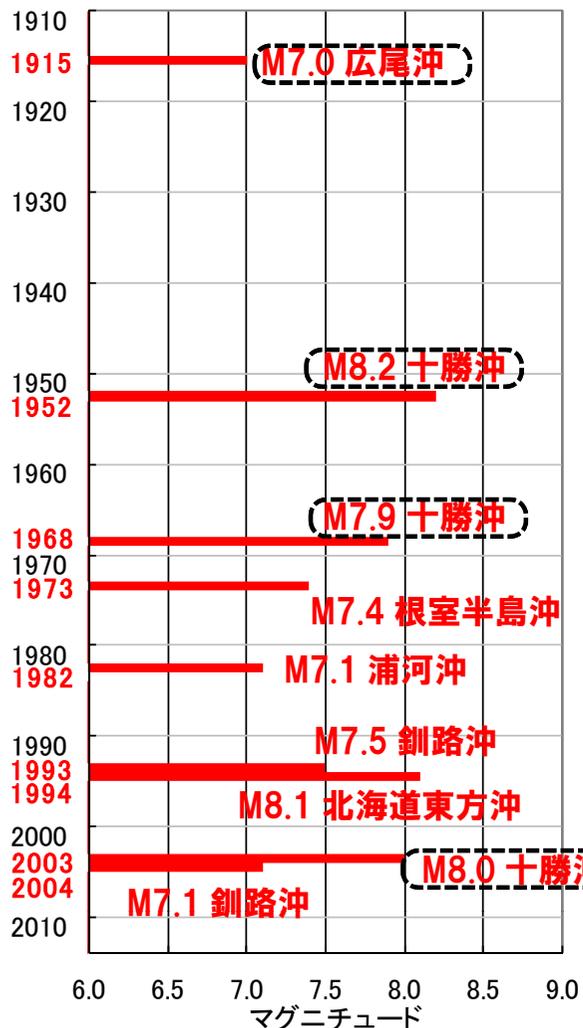
協議会の提案する周遊観光ルート

日高東部十勝南部広域連携推進協議会の提案する周遊観光ルート

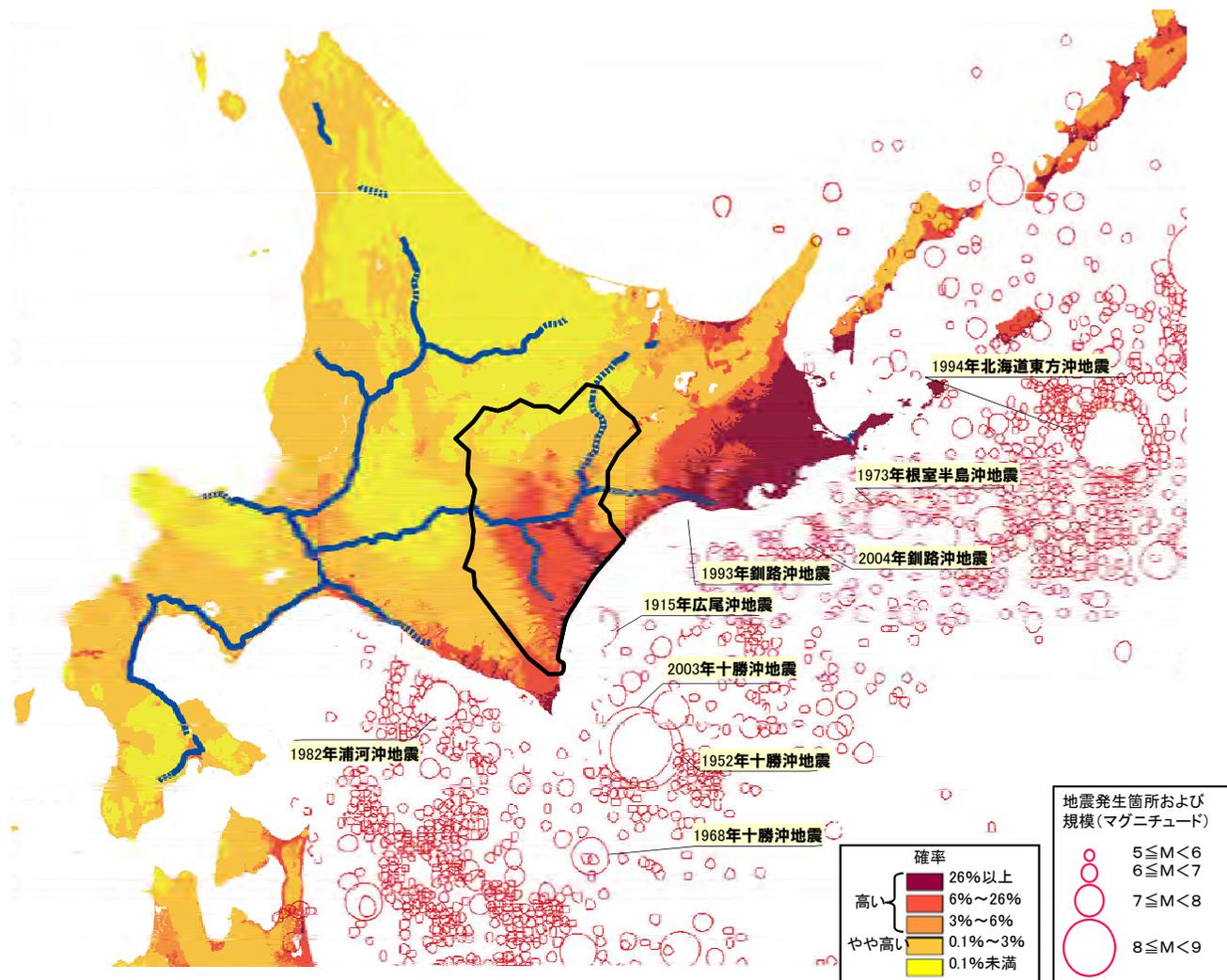
3-17) 自然災害(地震)

- 北海道に被害を及ぼした近年の主な地震の内、十勝沖を震源地とするM7.0以上は4回発生。
- 太平洋沿岸部では今後30年以内に震度6以上の地震が起きる確率が高い地域。

▼北海道に被害を及ぼした近年の主な地震履歴
(震源地:千島海溝周辺のみ)



▼30年以内に震度6弱以上の地震に見舞われる確率



資料：地震調査委員会調査報告書 (H25. 12)
 独立行政法人防災科学研究所HP
 ※地震発生箇所図は内閣府中央防災会議資料 (記載年次は1923-2005) を基に作成

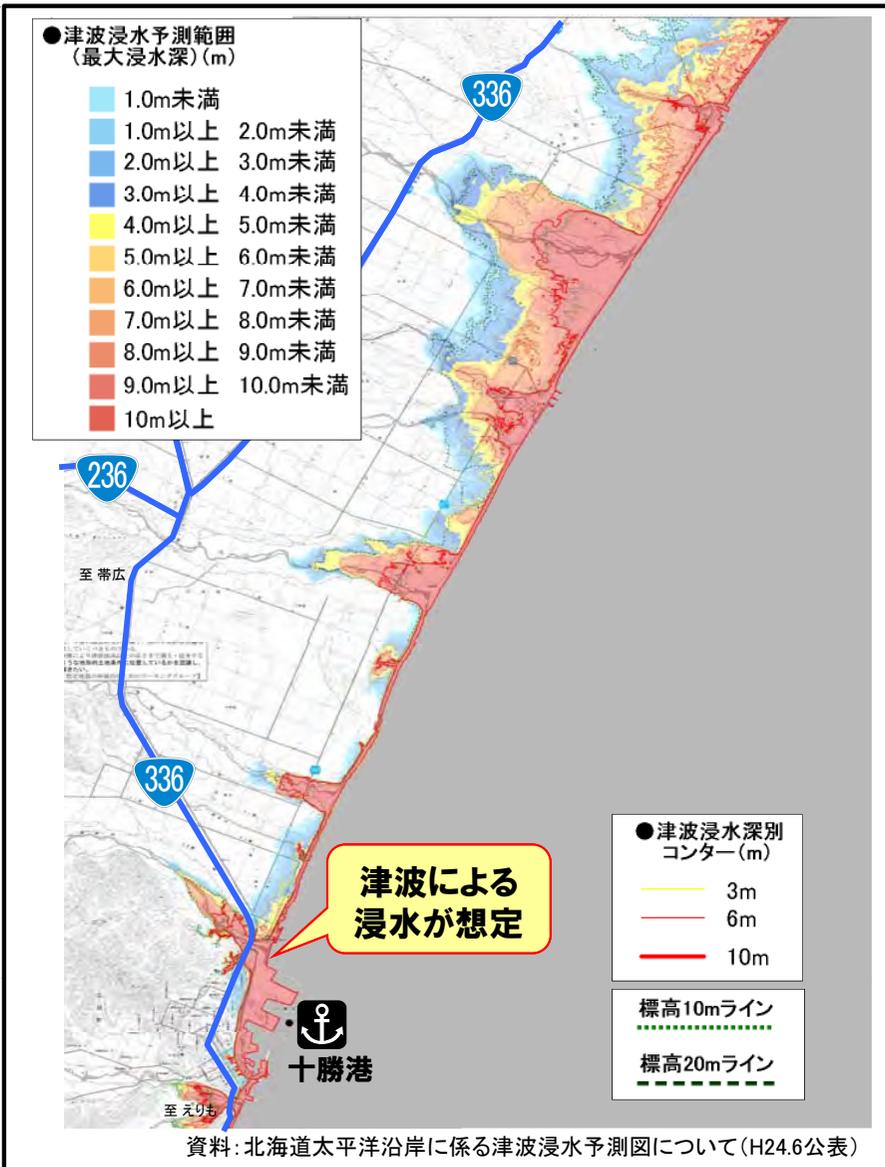
3-18) 自然災害(津波)

○東日本大震災の経験を踏まえ、平成24年6月に北海道太平洋沿岸に係る津波浸水予測が改訂され、広尾町、大樹町の沿岸では20m以上の高い津波による浸水が予測されている。
 ○関係自治体では地域防災計画の見直しや、津波ハザードマップの作成が進んでいる。

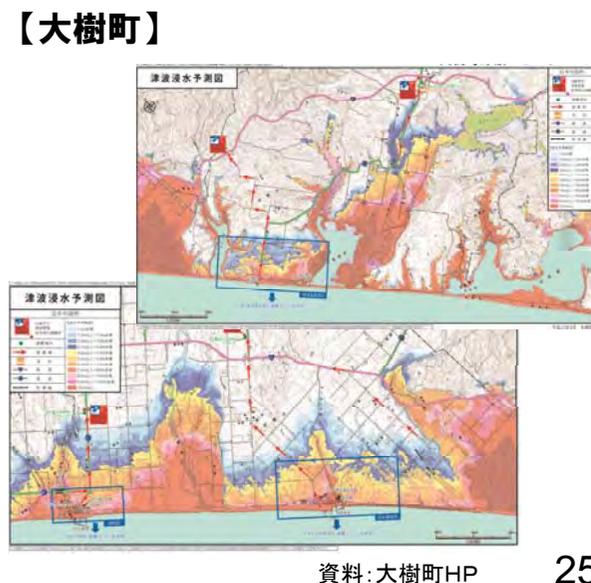
▼太平洋沿岸部における津波の想定高さ



▼北海道太平洋沿岸に係る津波浸水予測図



▼ハザードマップの作成状況



資料: 内閣府中央防災会議 専門調査会による報告書を基に「北海道に津波被害をもたらす想定地震の再検討のためのWG」にて北海道太平洋沿岸に係る津波浸水予測を策定 (H24.6北海道総務部危機対策局危機対策課)

4. 道路交通上の課題と原因分析

4-1) 防災の課題

○広尾町市街にアクセスする唯一の国道が、河口付近の津波浸水予想高さ約30mの津波浸水予想区域を橋梁で通過しており、津波災害時に現道が長期間寸断し広尾町(約8千人)が孤立する可能性。

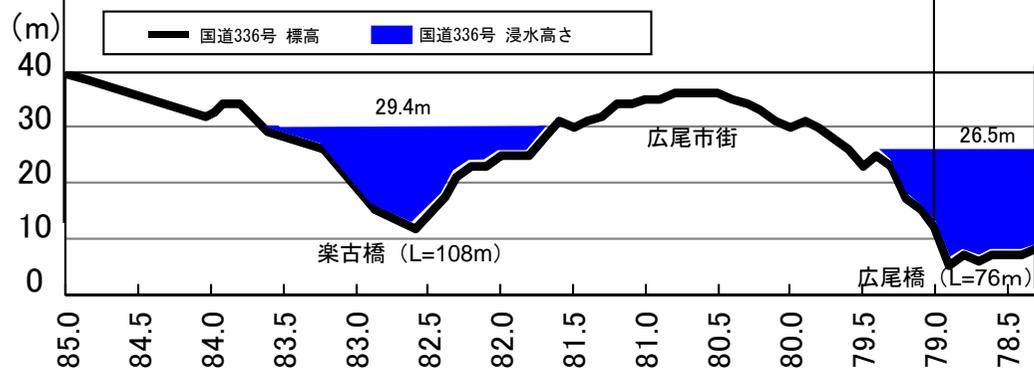
▼北海道太平洋沿岸に係る津波浸水予測図(H24.6)



●津波浸水予測範囲 (最大浸水深) (m)	
1.0m未満	5.0m以上 6.0m未満
1.0m以上 2.0m未満	6.0m以上 7.0m未満
2.0m以上 3.0m未満	7.0m以上 8.0m未満
3.0m以上 4.0m未満	8.0m以上 9.0m未満
4.0m以上 5.0m未満	9.0m以上 10.0m未満
	10m以上

●津波浸水深別コンター(m)	●標高10mライン
3m	標高20mライン
6m	
10m	

資料:北海道太平洋沿岸に係る津波浸水予測図について(H24.6公表)



資料:太平洋沿岸における海岸保全施設等の設計に用いる津波の水位について(北海道)、道路台帳、標高がわかるWEB地図(国土地理院HP)

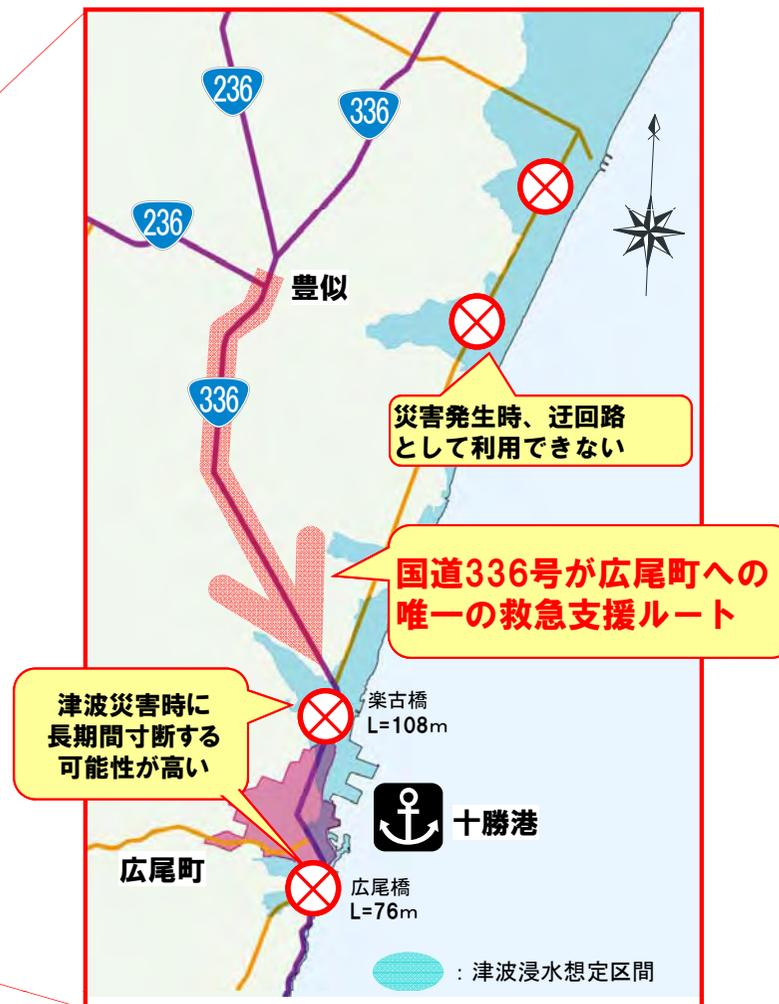
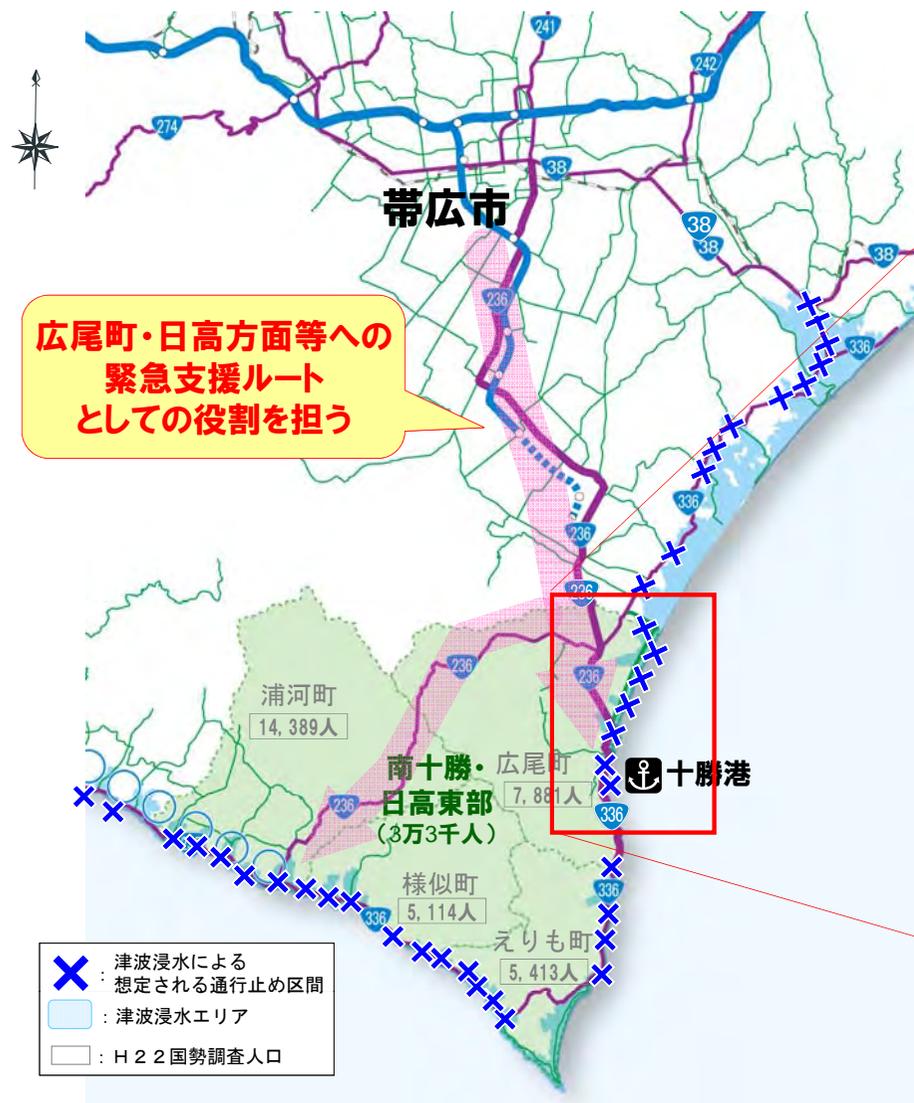
【被災状況】十勝港 H23.3 東日本大震災



4-2) 防災課題の原因分析

- 国道336号は、大規模地震やそれに伴う津波浸水により沿岸部が被災し、救急支援、復旧・復興ルートとして機能しない可能性が高い。
- 現在、豊似～広尾間の幹線道路は国道1本しかなく迂回路が無いいため、耐災害性は極めて脆弱。

▼南十勝・日高方面等の道路網と緊急支援ルート

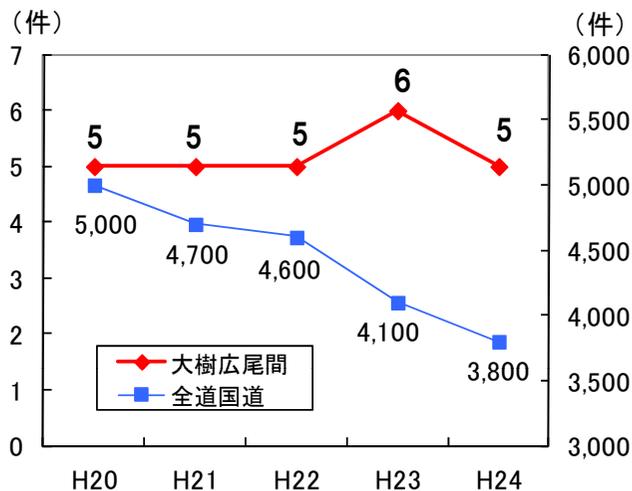


4-3) 物流の課題

- 物流の主要ルートである大樹～広尾間の現道では、交通事故発生箇所が多数存在。
- 死傷事故件数は全道国道が減少傾向にあるものの、当該区間では横ばい。
- 当該区間で発生する交通事故の約4割が貨物車が関係する事故であるなど、物流及び地域の安全性が低下。

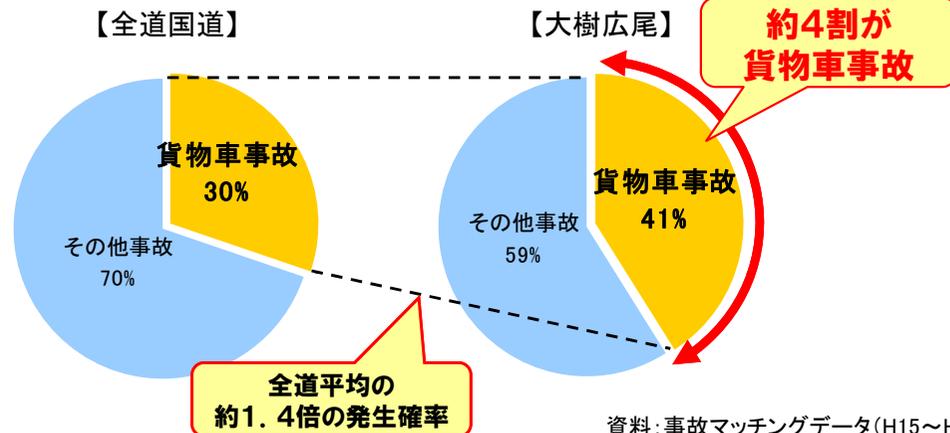


▼死傷事故件数の推移



資料: 交通事故総合データベース

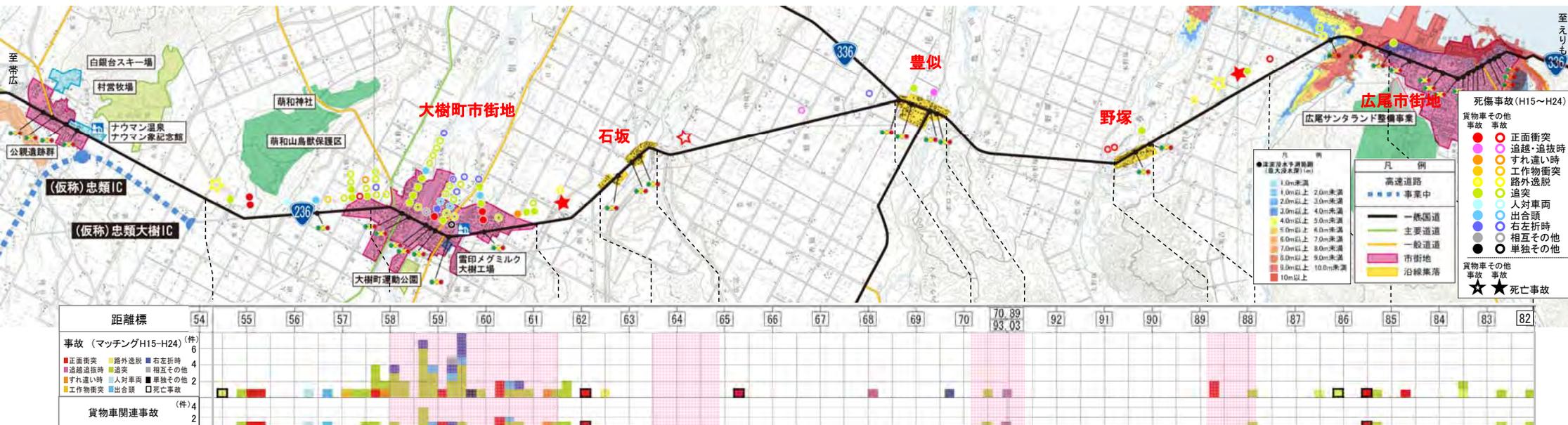
▼貨物車事故の割合



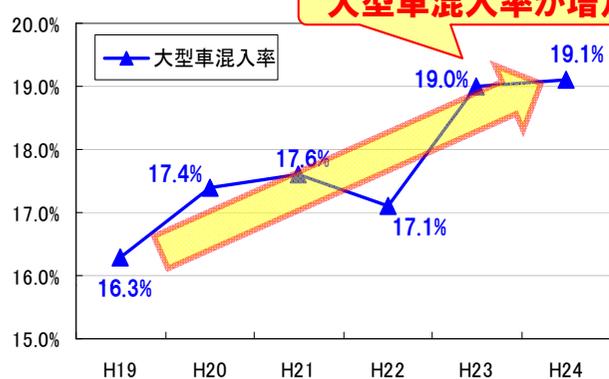
資料: 事故マッチングデータ(H15～H24)

4-4) 物流課題の原因分析

- 大型車混入率は近年増加しており、貨物車事故は大樹町や広尾町といった市街地や石坂・野塚などの集落周辺で多く発生。
- 市街地や集落では、日常生活交通と通過交通の混在により貨物車の追突、出合頭、右左折時の事故の割合が高く、一方郊外部では正面衝突などの貨物車事故の割合が高い傾向。

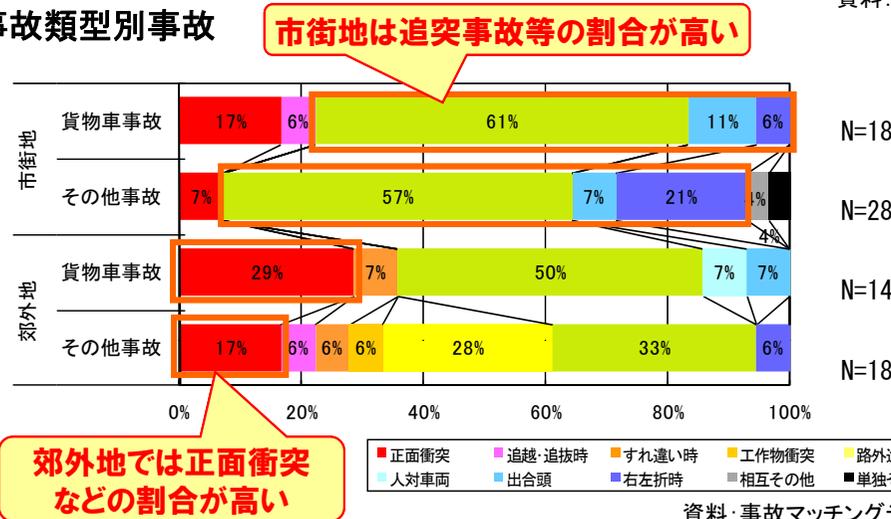


▼大型車混入率の推移



資料: 常時観測データ 大樹(H19~H24)

▼事故類型別事故



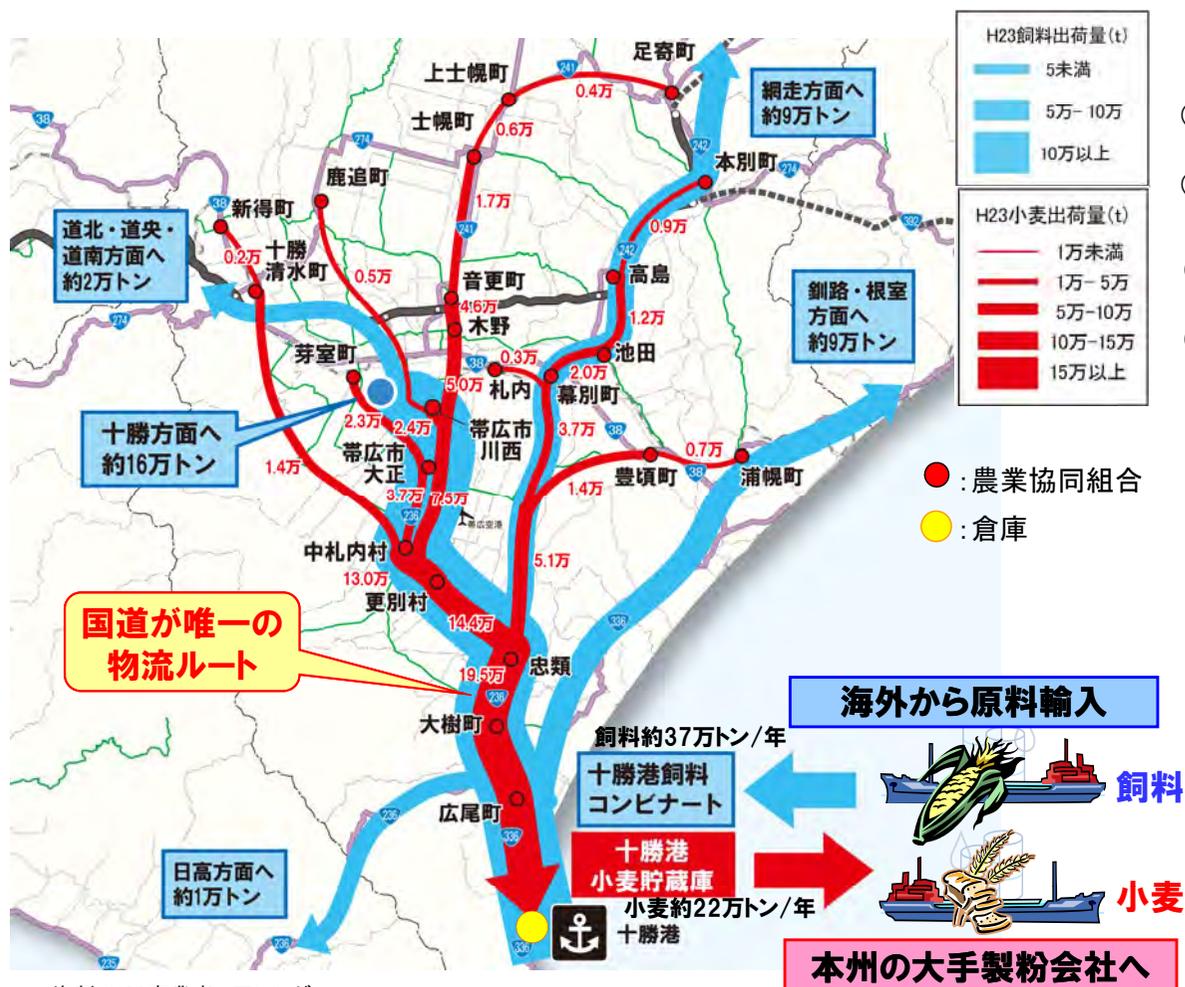
資料: 事故マッチングデータ(H15~H24)

資料: 事故マッチングデータ(H15~H24)

4-5) 物流課題の原因分析

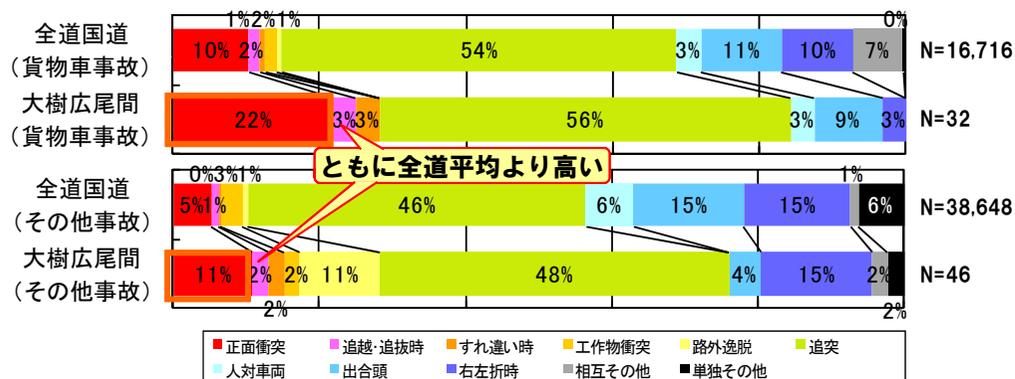
- 生産量全国1位の十勝の小麦や北米から十勝港に輸入された飼料は、物流ルートとして、国道236号、国道336号、帯広・広尾自動車道で構成される本ルートを通り各地に出荷されている。
- 重大事故に繋がる正面衝突事故発生傾向が全道平均より高く、貨物車起因によるものが半数以上あり、この内第一当事者割合は6割も占める。

▼十勝港からの小麦・飼料出荷



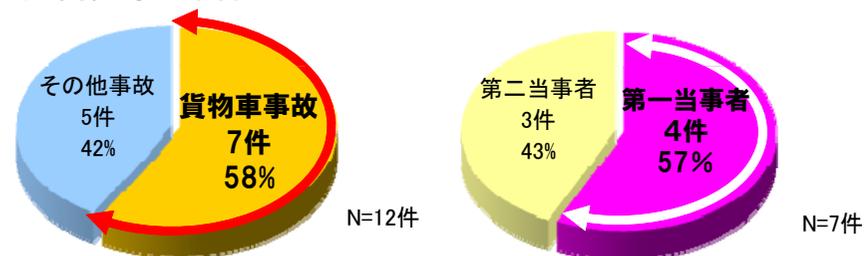
資料: H23事業者ヒアリング

▼事故類型別事故



資料: 事故マッチングデータ(H15~H24)

▼正面衝突事故割合



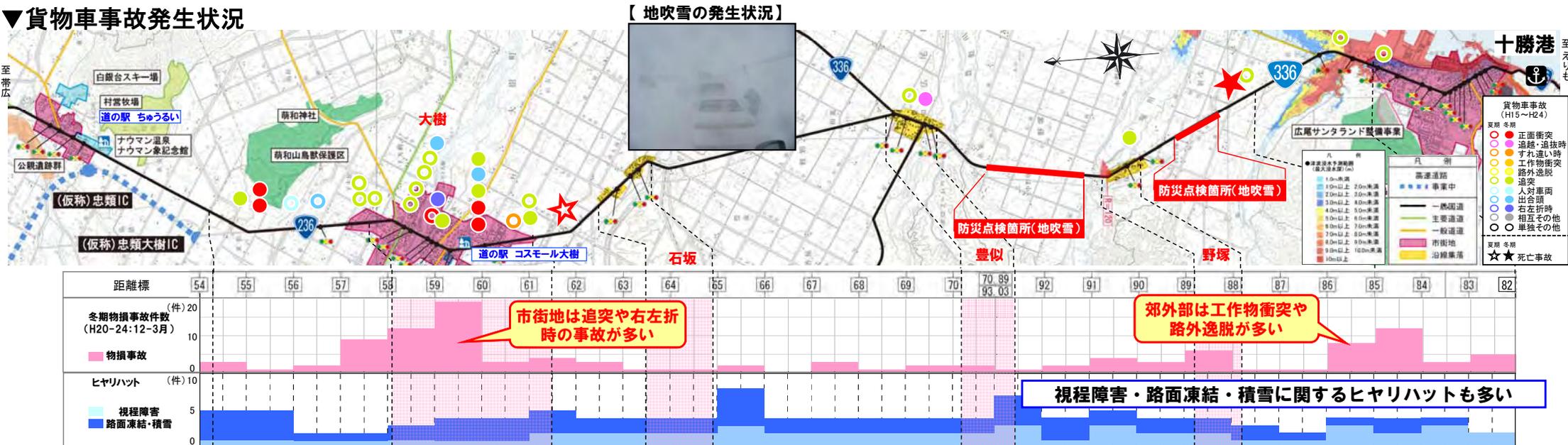
資料: 事故マッチングデータ(H15~H24)

資料: 事故マッチングデータ(H15~H24)

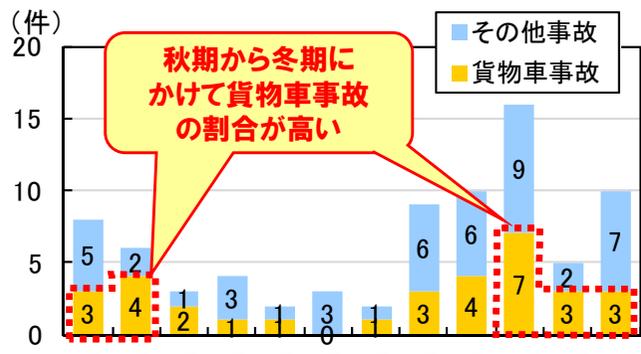
4-6) 物流課題の原因分析

- 月別推移では、秋期から冬期にかけて事故が多く発生しており、貨物車事故の割合が高い状況。
- 冬期の貨物車事故は、郊外部での吹雪による視程障害や路面凍結を要因として、正面衝突による事故が多く発生している。

▼貨物車事故発生状況

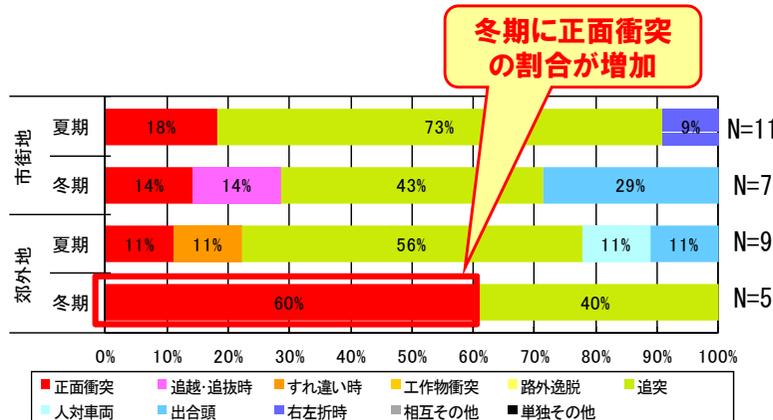


▼月別事故

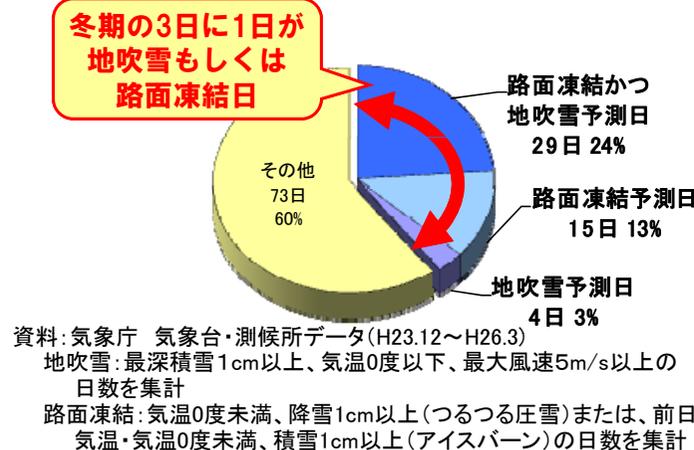


資料: 事故マッチングデータ(H15~H24)

▼貨物車事故の事故類型



▼冬期における走行環境の悪化



4-7) 医療の課題と原因分析

- 南十勝地域は、人口の約4割が救急医療施設まで60分以内に到達できず、特に広尾町では全人口におよぶなど、高次の救急医療に課題がある。
- 冬期は積雪による幅員減少や、冬期の3分の1を占める吹雪発生や路面凍結により走行環境が悪化するため、夏期に比べて高次医療施設までの救急搬送時間がさらに増加するとともに、搬送時間のばらつきが約2倍になるなど、救急搬送の速達性や定時性の確保が急務。

▼対象地域における救急医療施設の60分圏域の状況



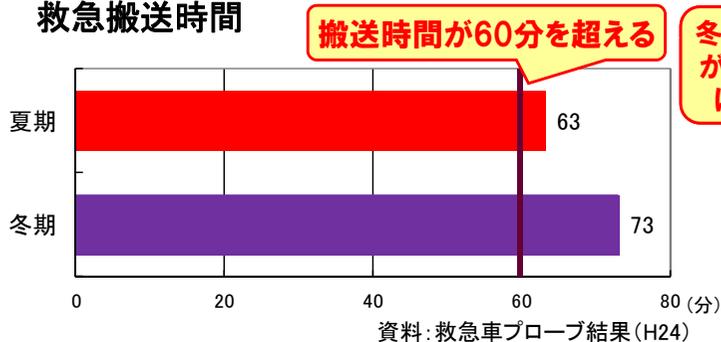
▼救急医療施設からの60分圏域外人口

	60分圏域外人口(割合)
十勝全体	28.1千人(8%)
南十勝地域	9.0千人(42%)
広尾町	7.9千人(100%)

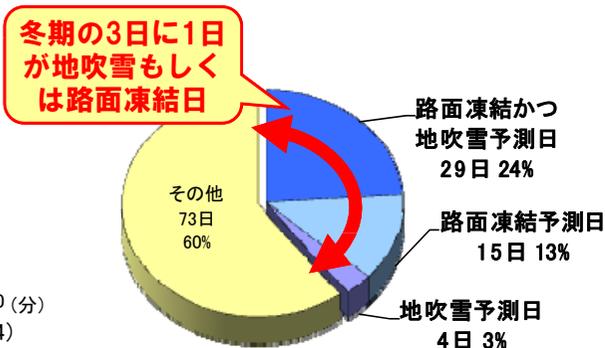
資料:救急車プローブ結果(H24)・H22年国勢調査

※ 南十勝地域とは、中札内村、更別村、大樹町、広尾町

▼広尾町から帯広市の高次医療施設への救急搬送時間

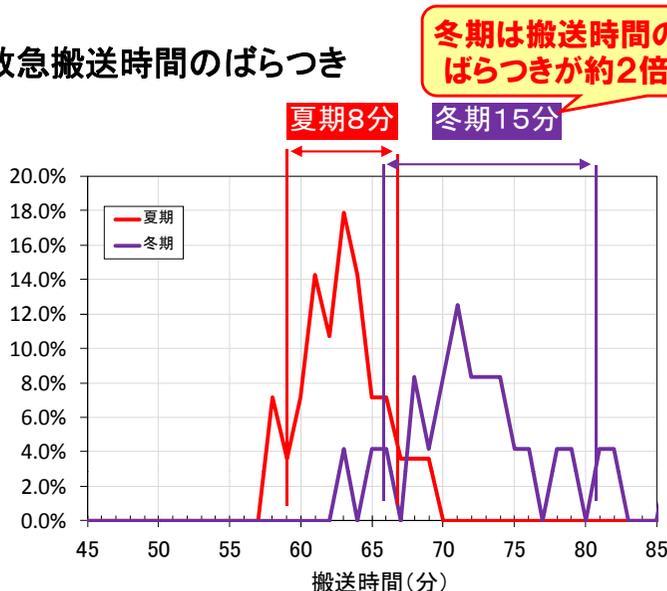


▼冬期における走行環境の悪化



資料:気象庁 気象台・測候所データ(H23.12~H26.3)
地吹雪:最深積雪1cm以上、気温0度以下、最大風速5m/s以上の日数を集計
路面凍結:気温0度未満、降雪1cm以上(つるつる圧雪)または、前日気温・気温0度未満、積雪1cm以上(アイスバーン)の日数を集計

▼救急搬送時間のばらつき



資料:救急車プローブ結果(H24)
夏期は4月~11月、冬期は12月~3月とした
ばらつきは上位、下位10%を除いた所要時間の差

冬期幅員減少により走行環境が悪化



5. 政策目標の案

5-1) 地域及び道路の現状と課題のまとめ

地域の課題(案)		原因	政策目標(案)
防災	<ul style="list-style-type: none"> ○大規模災害時の避難及び支援物資輸送路が脆弱 	<ul style="list-style-type: none"> ○津波被害を直接受ける可能性がある国道1本に依存する緊急輸送道路 	<ul style="list-style-type: none"> ○災害時の信頼性の高いネットワークの構築
物流	<ul style="list-style-type: none"> ○全国への食料供給を支える十勝港アクセスルートของ 安全性・確実性の低下 ○主要物流ルート上で多発する交通事故 	<ul style="list-style-type: none"> ○貨物車事故の割合が高い ○一般車両と貨物車の輻輳による大型車事故の発生 	<ul style="list-style-type: none"> ○貨物車の安全な走行環境の確保による安全な物流ルートの確保
医療	<ul style="list-style-type: none"> ○救急医療・高次医療サービスの享受が困難 	<ul style="list-style-type: none"> ○速度低下の多い区間の通過により、帯広市の高次医療施設まで長時間の移動が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ○高次医療施設へのアクセス向上

5-2) 圏域と地域の将来像

○政策目標の案(防災・医療・物流)は、国・北海道及び通過予定の各町の長期計画と整合

国・北海道の総合計画等

各町村の総合計画等

新たな北海道総合開発計画 (H20-H29)	主要施策 (抜粋)
食料供給力の強化と食にかかわる産業の高付加価値化・競争力強化	<p>食にかかわる産業の高付加価値化・競争力強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 産地直送など多様な流通経路の構築、マーケティングによる消費者ニーズの把握及びこれらを踏まえた新技術の活用等による多様な食品の開発・普及の取組を促進する。 東アジア地域等への農水産物・加工食品の輸出促進へ向け、情報の収集及び発信、海外市場開拓機能の形成等、販路の拡大を支援する。【産業・物流】
国内外に開かれた広域交通ネットワークの構築	<p>高速交通ネットワークの強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 高規格幹線道路を始めとする基幹的なネットワークの整備を推進する。 <p>国際競争力を高めるための物流ネットワーク機能の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 港湾・空港や道内各地の物流拠点・生産拠点と高規格幹線道路とのアクセスを強化するほか、国際標準コンテナ車が支障無く通行できる幹線道路ネットワークを構築する。【産業・物流】
魅力と活力ある北国の地域づくり・まちづくり	<p>都市における機能の強化と魅力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 集約拠点へつながる公共交通ネットワークや、道路ネットワークの強化などを推進する。【医療・生活】
頻発する自然災害に備える防災対策の推進	<p>根幹的な防災対策の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 道路密度の低い北海道において信頼性の高い道路ネットワークの構築を図る。 <p>豪雪対策および積雪寒冷地域における防災対策の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 避難路の除雪・防雪・凍雪害防止対策の強化推進、冬期を想定した避難訓練実施等、積雪寒冷地域の特性を考慮した防災対策を推進する。【防災・災害】

資料：国土交通省

新・北海道総合計画 (十勝連携地域) (H20-H29)	主要施策 (抜粋)
食品産業や外食産業との連携などによる農水産物の付加価値向上	<ul style="list-style-type: none"> 地域の特色ある資源を生かした農水産物加工や直接販売、ファームイン、ファームレストランなどのアグリビジネスの推進 食品産業や外食産業などとの連携強化による農水産物の付加価値の向上【産業・物流】
十勝ブランドの形成による農林水産業の競争力強化	<ul style="list-style-type: none"> 産学官連携や産業クラスターによる新技術・新商品の開発 食の安全・安心などを重視した高付加価値製品の開発や販路拡大【産業・物流】
安心して暮らせる地域医療の確保	<ul style="list-style-type: none"> 第三次保健医療福祉圏における地方センター病院など高度な医療機能を有する病院を中心とした高度医療提供体制の確立【医療・生活】
暮らしや産業を支える交通・情報ネットワークの形成	<ul style="list-style-type: none"> 他地域との連携強化や空港・港湾などとのアクセス強化等を進めるための高速道路や域内幹線道路の整備、空港の機能充実など暮らしや産業を支える交通・情報ネットワークの形成【交通】

資料：北海道

市 町	主要施策 (抜粋)
中札内村 第6期 まちづくり計画 (平成26年度～平成33年度)	<p>○活力あふれる産業を育むまち</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域特性を生かした農産物の生産と加工、粋匠品登録制度の活用や生産者・関連団体の活動を支援し、付加価値向上を促進するとともに、ブランド化・消費者に選ばれる産地づくりを進め、生産者と連携した販売を促進する。【産業・物流】 <p>○自然豊かで快適に暮らせるまち</p> <ul style="list-style-type: none"> 関係住民の声や環境などに配慮した高規格道路帯広・広尾自動車道の早期完成を要請する。【交通】 交通安全施設の整備と維持管理体制の充実を要請する。【事故】 災害時に迅速かつ的確な防災活動を行うため、村民、行政、関係機関が一体となった防災訓練を実施し、災害対応力の向上を図る。【防災・災害】 救急業務の高度化に取り組む。【医療・生活】
更別村 第5期 更別村総合計画 (平成26年度～平成35年度)	<p>○にぎわいと元気を生み出すまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活や交流、産業振興などを支える道路網や情報基盤を整備促進する。【医療・生活】【産業・物流】 経営や生産技術、生産環境の維持・向上など、基幹産業である農業の振興に努める。【産業・物流】 <p>○生活の安心を高めるまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 災害や緊急事態に対する意識や備えを促すとともに、発生時に迅速・的確に対応できる体制づくりに努める。【防災・災害】
大樹町 第5期 大樹町総合計画 (平成26年度～平成35年度)	<p>○人と自然にやさしいまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 住民生活や経済活動を支える安全で便利な道路整備を進めるとともに、道路管理者の連携を深め、利用しやすい交通ネットワークを構築する。【交通】 災害に強いまちづくりをめざし、地震や豪雨などの自然災害への対策や危険区域の整備をはかる。【防災・災害】 <p>○安心と支えあいのまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 町内及び管内医療機関をはじめ関係機関との連携を深めながら、地域医療体制の充実に努める。【医療・生活】 <p>○資源を豊かさにつなげるまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 生産性が高く、環境に配慮した農業の推進をめざし、草地や畑地の整備や農地の保全、地力の向上など生産基盤の整備を促進する。【産業・物流】
広尾町 第5次 広尾町まちづくり 推進総合計画 (平成20年度～平成31年度)	<p>○豊かな自然を生かした活力ある産業のまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 安全で良質な農畜産物の生産と足腰の強い農業経営の育成をめざす。【産業・物流】 <p>○住みやすさが感じられるまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 「地域防災力」を強化し、自然災害につよいまちをつくる。【防災・災害】 迅速で的確な救急体制を確立し、住民の生命を守る。【医療・生活】 交通事故のない安全なまちをつくる。【事故】

資料：各町村 36

5-3) 政策目標の案

■政策目標の案

○地域の課題や将来像等を踏まえ、3つの政策目標の案を設定し、これらの目標を達成するための対策案を検討

地域や道路の状況や課題

圏域と地域の将来像

1. 災害時の信頼性の高いネットワークの構築
2. 貨物車の安全な走行環境の確保による安全な物流ルート確保
3. 地域の医療不安を解消する高次医療施設へのアクセス向上

■対策案の検討

【防災関連】

- ・津波浸水時の広尾町の孤立を回避
- ・緊急輸送ルートの代替性確保による災害発生時の確実性・多重性の確保

【産業活動関連】

- ・道路機能の分化による貨物車関連事故件数の減少
- ・全国への食料供給を支える十勝港アクセスルート安全性・確実性の確保

【医療関連】

- ・速達性、走行性の向上による高次医療施設への搬送時間の短縮、高次医療施設60分カバー圏の拡大

既存の道路ストック活用や別線整備等の対策案を設定し検討

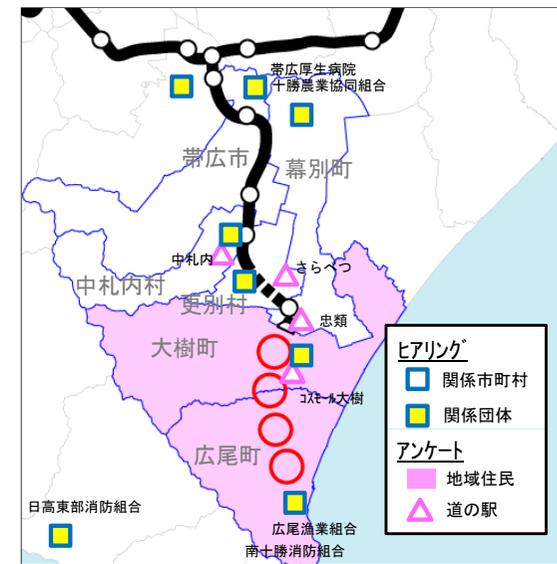
6. 地域意見聴取方法

6-1) 地域意見聴取方法

■意見聴取の項目

- 現況の問題点、解決すべき課題
- 地域の道路に求められる機能
- その他意見

■ヒアリング・アンケート範囲



■意見聴取の方法と対象者

対象者・実施方法			
ヒアリング	【関係市町村及び関係団体】		
	関係市町村	帯広市、中札内村、更別村、幕別町、大樹町、広尾町	インタビュー形式でのヒアリング調査
関係団体	商工会(帯広、芽室、中札内、更別、幕別、大樹、広尾)、南十勝消防組合、日高東部消防組合、帯広厚生病院、北海道十勝観光連盟、北海道バス協会、北海道トラック協会、十勝農業協同組合連合会、広尾漁業協同組合		
アンケート	【地域住民及び道路利用者】		
	地域住民	大樹町(約2,600世帯) 広尾町(約3,400世帯)	自治体広報誌と同時全戸配布(約6,000世帯)
	道路利用者	道の駅(中札内、更別、忠類、大樹)	道の駅への常設
道路利用者			Web(HP)掲載による実施

■第1回アンケートにおける調査方法および質問内容

①調査概要

➡ **○本調査の趣旨・今後の進め方・調査対象箇所の提示**

帯広・広尾自動車道（大樹～広尾）における 道路計画に関する第1回アンケート調査

帯広・広尾自動車道は、北海道横断自動車道帯広ジャンクションから分岐し、帯広市・とちろ帯広空港を経由して、広尾町・十勝港に至る延長約80kmの高規格幹線道路です。

現在、帯広JCT～更別ICまで開通しており、更別IC～(仮)忠類大樹IC間は平成26年度中の開通に向け、国土交通省北海道開発局が整備を進めています。

本アンケート調査は、帯広・広尾自動車道のうち、未事業化区間の大樹～広尾間の道路計画について、周辺地域の皆様にご意見を伺うアンケートです。

アンケート調査は2回行い、第1回アンケート（本調査）では、地域の皆さまが日頃感じられている道路交通面での課題や、求められる機能について、ご意見をお聞かせください。

また、第2回アンケートでは、地域の課題を解消するためにふさわしい対策案についてお聞きする予定です。

本アンケートにご協力いただきますようお願いいたします。



アンケートの目的

■アンケートは「計画段階評価」審議の参考となります。

国土交通省では、道路事業の透明性・効率性を高めるため、「計画段階評価」の取り組みを導入しました。これは道路整備等の整備方針を、地域の声を聞きながら、第三者委員会によって審議するものです。

2014年7月から行われている「社会資本整備審議会 道路分科会 北海道地方小委員会」では、帯広・広尾自動車道（大樹～広尾間）を対象として、この「計画段階評価」の審議が行われています。

この審議にあたり、地域の路線、道路利用者、関係団体のみなさまのご意見を伺い、その結果を踏まえ、帯広・広尾自動車道（大樹～広尾間）の整備方針が決定される予定です。

■委員会と意見聴取の手順

<p>社会資本整備審議会 道路分科会 北海道地方小委員会</p> <p>帯広広尾道（大樹～広尾間）の地域の課題、政策目標について審議</p>	<p>住民の皆様、関係団体への意見聴取</p> <p>第1回 地域の課題、政策目標の案について</p> <p>第2回 対策案に求める機能や配慮事項について</p>	<p>社会資本整備審議会 道路分科会 北海道地方小委員会</p> <p>アンケート結果を踏まえ、「整備方針（案）」の決定</p>
--	--	--

■第1回アンケートにおける調査方法および質問内容

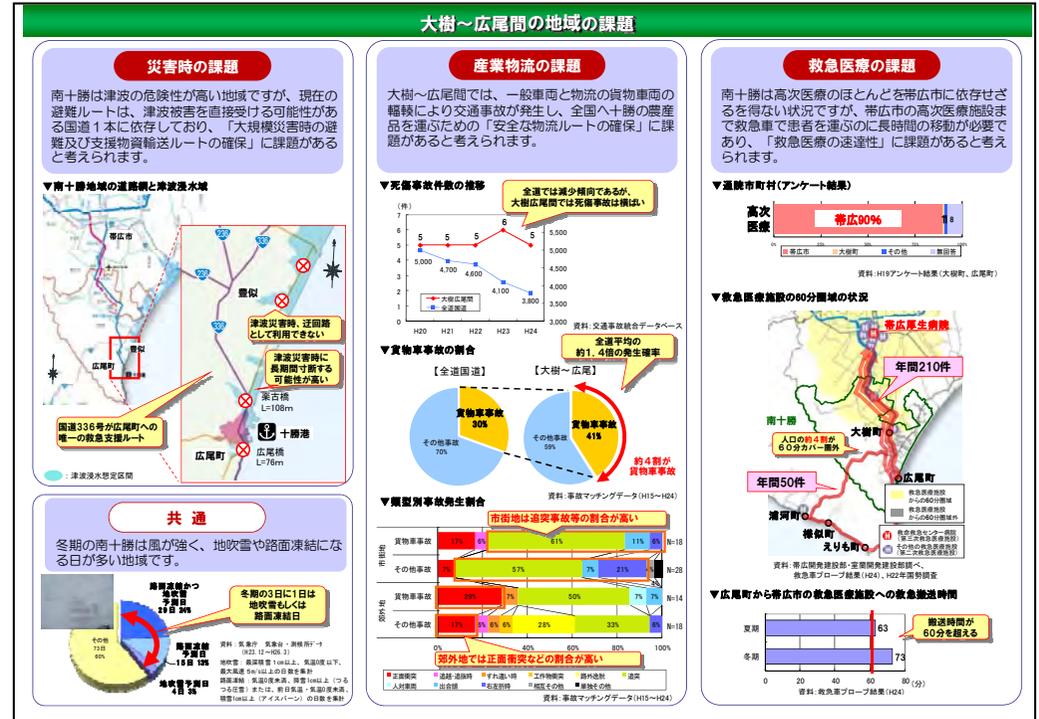
②国道236号・国道336号(大樹～広尾)の現状

➡ ○対象路線の交通状況および道路課題の提示



③地域課題

➡ ○対象路線の沿線における地域課題の提示



■第1回アンケートにおける調査方法および質問内容

④質問事項・アンケート返信用ハガキ(裏面)

- ➡ ○現況の問題点
- 地域の道路に求められる機能
- その他のご意見

⑤アンケート返信用ハガキ(表面)・Webアンケート案内・問い合わせ先

- ➡ ○回答者属性
- 利用交通の実態と目的 等を確認

大樹～広尾間の道路計画に関するアンケートにお答えください
(回答は返信はがきに記入して下さい)

質問1. 大樹～広尾間の現道の交通課題について

1-1 大樹～広尾間の国道において、以下に示す交通課題に対し、どのようにお感じですか？
以下に示す①～⑤について、「そう思う」～「そう思わない」の5段階で評価して下さい。
(①～⑤について、あてはまるもの1つに○をつけて下さい)

	そう思う	やや そう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	そう 思わない
① 大型車が多く、無理な追い越しがあるなど交通事故のリスクが高い					
② 異常気象が多発するなか、主要な幹線道路が1本しかない					
③ 津波災害時に広尾町が孤立する恐れがある					
④ 高次医療病院などの目的地まで時間がかかる					
⑤ 冬期は地吹雪や路面凍結が頻繁に発生					

1-2 5つの交通課題以外で、あなたが問題だと思うことがあれば、ご自由にお書きください。
()

質問2. 大樹～広尾間の道路に求められる機能について

2-1 質問1にあげられた課題を踏まえ、大樹～広尾間の道路に求められる機能について、どのようにお感じですか？ 以下に示す①～⑤について、「そう思う」～「そう思わない」の5段階で評価して下さい。(①～⑤について、あてはまるもの1つに○をつけて下さい)

	そう思う	やや そう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	そう 思わない
① 交通事故が少ない安全な道路					
② 円滑な物流輸送を支える道路					
③ 凶悪時に支援ルートとして機能する道路					
④ 救急搬送など地域医療を支える道路					
⑤ 冬期でも安全に走行できる道路					

2-2 5つの機能以外で、あなたが問題だと思うことがあれば、ご自由にお書きください。
()

質問3. その他のご意見

その他、大樹～広尾間について、ご意見やご要望がありましたら、ご自由にお書き下さい。
()

アンケートの回答方法、実施期間

- ・回答は左の回答用の郵便はがきにご記入ください。また、インターネットによる回答も可能になっておりますので、下記アドレスからアクセス願います。
帯広・広尾自動車道 大樹～広尾間 道路計画に関する意見募集 Web回答用ページ <http://0000>
- ・回答用の郵便はがきをこの紙から切り取っていただき、切手を張らずにそのまま近くの郵便ポストへ投かんして下さい。なお投かんは、平成26年〇月〇日(〇)までにお願いします。

回答用はがきの記入例

〒080-8585 帯広市西4条南8丁目 帯広開発建設部 道路計画課

帯広・広尾自動車道 大樹～広尾間 道路計画に関する意見募集係 行

※一回答の設問は、あてはまる番号や欄に1つだけ○をつけてください。
※複数回答の設問はあてはまる番号すべてに○をつけてください。
※自由回答の設問や、「その他」の選択肢に○をつけた場合は、具体的な内容を文章でご記入ください。

アンケート回答欄【おとも】

郵便はがき 0808790

料金受取人払郵便 帯広郵便局 承 認 000 差出有効期間 平成26年〇月〇日まで (切手不要)

北海道帯広市西4条南8丁目 帯広開発建設部 道路計画課 帯広・広尾自動車道 大樹～広尾間 道路計画に関する意見募集係 行

■あなた自身のことについて (記入または当てはまる番号に○をつけてください)

住所 〒 北海道 市・町・村 性別 ①男性 ②女性

年齢 ①20代以下 ②30～40代 ③50～60代 ④70代以上

職業 ①会社員 ②公務員 ③農業 ④漁業 ⑤林業 ⑥観光業 ⑦学生 ⑧主婦 ⑨物流・輸送 ⑩商業 ⑪工業 ⑫無職 ⑬その他 ()

■自動車運転する頻度を教えてください (あてはまるもの1つに○)

①毎日 ②週数回 ③月数回 ④ほとんど運転しない ⑤運転しない

■大樹～広尾間の利用頻度を教えてください (あてはまるもの1つに○)

①毎日 ②週数回 ③月数回 ④ほとんど利用しない ⑤利用したことがない

■大樹～広尾間の主な利用目的を教えてください (あてはまるもの全てに○)

①通勤・通学 ②通院 ③家事・買物 ④仕事(営業・運送等) ⑤観光・レジャー ⑥その他 ()

■高速道路の利用頻度を教えてください (あてはまるもの1つに○)

①毎日 ②週数回 ③月数回 ④ほとんど利用しない ⑤利用したことがない

アンケートについてのお問い合わせ先

<調査主体>
北海道開発局 帯広開発建設部 道路計画課
帯広・広尾自動車道 大樹～広尾間 道路計画に関する意見募集係
〒080-8585 帯広市西4条南8丁目 電話0155-24-4106

安全で快適な
地域づくりのために
みなさまのご意見を
お待ちしております。